

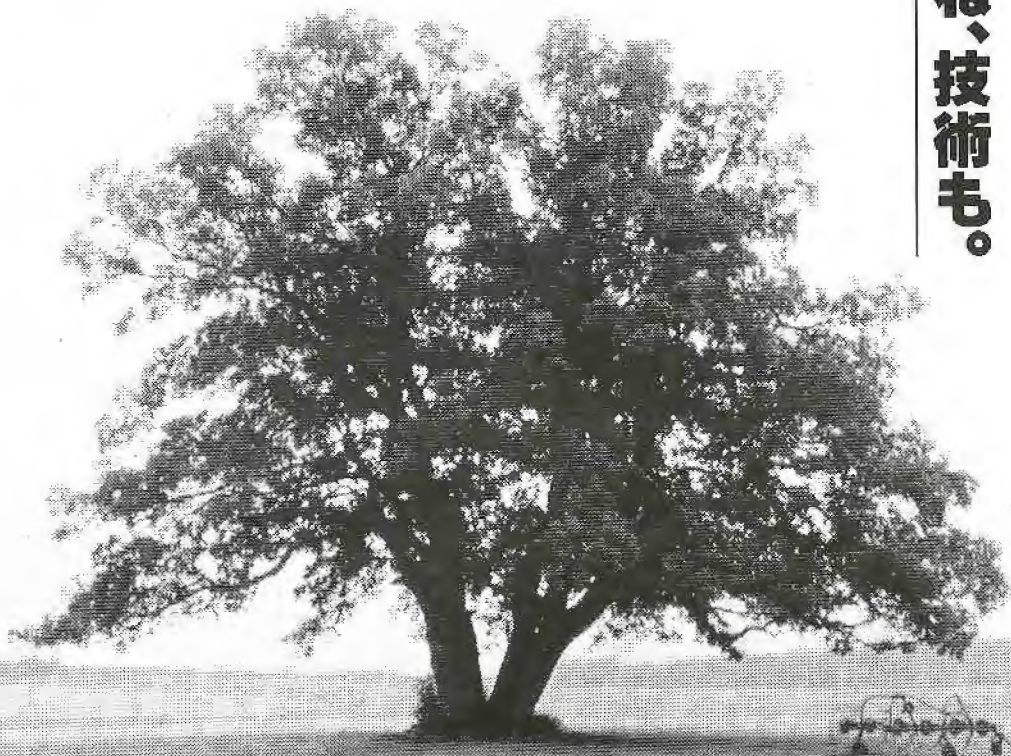
技術にこころをこめて75年



HITACHI

シンプルがいいね、技術も。

近年、〝技術〟はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。



株式會社 日立製作所 宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 TEL東京(03)258-1111(大代)

第9回全国高校選抜大会

大型化と共にスピードをもつハンドボールを

●全国高体連競技委員長／日野博

第9回全国高等学校ハンドボール選抜大会は、3月24日から5日間、愛知県立体育館に各県、各ブロックを勝ち抜いた男女50チームが参加して盛大に開催されました。

今大会では、昭和60年度ハンドボール競技の最後の大会ですが、高校生にとっては昨年の秋より新チームを編成した、まだ未完成であるが、昭和61年度全国高校総合体育大会に向けての前哨戦となるべく期待のもてる大会であった。

3月24日3時30分より前年度優勝チームを先頭に北から入場を開始する。どのチームも次代を担う選び抜かれた高校生の姿であった。

2日目より1回戦が開始される。男子では小松工高のテクニックに対して大阪商業高の大型チームの対戦であったが、大型のチームのロングに小松工高は敗れる。常連の岩国工高対初出場のコザ高は、シーソーゲームの展開で大技、小技を両チーム共展開し、コザ高が逃げきる。地元岡崎城西高と東宇治高は粘りの東宇治高が地元を破る。昨年の覇者横浜商工高は勝ち進むも、愛知高は野辺地高にリードを許し、関東1位の富岡高は有望視されていたが長崎日大高のディフェンスが良く、後半に於いて逆転される。明星高は順調に2回戦へと進む。地元の2チームが共に1回戦にて敗退することは過去になく、期待が薄れる

2回戦に於いては大阪商高、コザ高は無難に勝ち進み、松山西高、東宇治高、総社高、大型の久留米工大附高、本大会唯一つの延長戦である長崎日大高対高岡向陵高は、一進一退の熱戦を展開し、勝利をものにしたのは長崎日大高。明星高も順調に勝ち進み、ベスト8が出揃ったが、西7校、東1校と西が優勢に進む。

ベスト4は、大型の大阪商高は冴えず、コザ高のコンビネーションプレーやスピードを生かしてコザが勝ち進む。松山西高はよく健闘し、最後まで頑張ったけれども東宇治高の粘りが勝る。総社高は強豪久留米工大附高を相手に戦うも、力の差はどうにもならず、久留米工大附の軍門に降る。長崎日大高は明星のリードを許さず、テクニックと組織プレーにて勝ち進む。

準決勝は九州3校と近畿1校で、コザ高対東宇治高戦。共に勝ち進むにつれ実力を身につけて来た両チームで最後まで試合を捨てず、精神力で勝るコザ高が決勝へ進む。久留米工大附高対長崎日大高は久留米工大附高の力で押された感があった。決勝はコザ高対久留米工大附高。九州大会にて戦っているが、久留米工大附の大技に屈した。

女子は1回戦は予想通りの2回戦進出であった。ベスト8には四天王寺高、関東の1位海道二高を破った暁高、小松市女高、山陽女高、高松商高、名古屋短大附高、新鋭の川口青陵高、岩国商高、ベスト4には四天王寺高、実力をもった小松市女高、地元の期待と連覇を狙う名古屋短大附高、九州地区を破り、勢いにのる川口青陵高である。

決勝は昨年同様に小松市女高と名古屋短大附高の対戦となる。両チーム共闘志を表面にして戦うも小松市女高は昨年の雪辱を期して、スピードで勝る小松市女高が2年振り5度目の優勝をする。

男子は混戦模様を予想したが、各チームとも特徴を発揮して、好ゲームを展開する。九州地区3校が出場して金・銀・銅を占めたのも特記すべきことであり、試合中に東西で闘っていれば西が勝つとささやいたことが実現する。本大会の特色であった。

ただ勝つがための課題でもあるのだろうが、ハンドボールの特性を生かしたプレーがほしい。体格にまかせ、スピードのないゲームはハンドボールの意を無視する。基本姿勢をもつ走る、跳ぶ、投げる、7人攻撃7人防御がほしい。女子は順調に伸びているが、大型化した今日、決勝のような点差は開いていても両チームとも最後まで健闘する姿が本当の高校生であり、多くの人々の支援されるのではないでしょうか。

大型化と共にスピードをもつハンドボールを育てることが今後の指導者の課題でもある。

〈男子〉久留米工大附2年ぶり3回目の優勝

▼1回戦

大阪商（大阪）25〔10—8 15—14〕22 小松工（石川）

○…大型チームの大阪商と小兵ながらスピードを身上とする小松工の対戦。序盤よりセットプレー中心の攻防となり、大阪商の高さを小松工がどのように切り崩すかが見どころとなった。前半はややミスの目立つ大阪商に対し、小松工は切れの良いフェイントとパスワークで互角の戦いとなる。しかし、前半残り2分のところで、大阪商は鹿嶌のシュートなどでリードし、10—8で折り返す。

後半は、小松がコンビプレーや速攻、中出、関戸らのミドルシュートなどに冴えを見せ、一時は逆転もしたが、大阪商はポストプレーを多用し、いざという時は両エースが打ちに出る展開で、終盤混戦を抜け出し逃げきった。（渡辺）

	〔小松工〕	得
GK	北野	0
GK	下坂	0
FP	河原	0
FP	宮西	0
FP	吉村	3
FP	中出	5
FP	関戸	8
FP	福田	5
FP	中村輝	0
FP	中村建	1
FP	江渕	0
FP	松見	0
PT	(3)	22

（審・上久保 北井）

	〔大阪商〕	得
GK	西田	0
GK	原口	0
FP	平沼	8
FP	鹿嶌	10
FP	杉谷	1
FP	広野	0
FP	藤尾	3
FP	木下	0
FP	西山	3
FP	大畑	0
FP	山口	0
FP	安村	0
PT	(2)	25

コザ（沖縄）19〔9—7 10—11〕18 岩国工（山口）

○…出足一進一退で、8分に4—3と岩国工がリード、しかし、コザのDFの動きが良く、素早いチェックで15分間岩国工を無得点に押さえた。その間、神里のステップ、スカイプレーなどで5点を連取し、8—4とペースをつかんだ。その後岩国工も盛り返し、9—7とコザのリードで前半終了。

後半10分、12—12と岩国工が追いついたが、常にコザがリードを保ち、1点差、2点差のシーソーゲームとなった。残り2分、コザ・渡久地のロングで3点差とし、岩国工の激しい攻撃をしのいで1点差で終了した。

両チームともスピードのあるきびきびとした動きで好ゲームであった。（加藤）

	〔岩国工〕	得
GK	岡本	0
GK	宗田	0
FP	金岡	3
FP	柏崎	1
FP	山本	4
FP	貴船	0
FP	上村	5
FP	三浦	1
FP	藤中	2
FP	福田	0
FP	藤井	0
FP	柏本	2
PT	(1)	18

（審・千野 後藤）

	〔コザ〕	得
GK	兼島	0
GK	我喜屋	0
FP	西平	0
FP	伊沢	2
FP	金城	0
FP	井口	3
FP	渡久地	7
FP	安里	3
FP	稲福	0
FP	神里	4
PT	(2)	19

松山西（愛媛）26〔10—7 16—13〕20 湯沢（秋田）

○…立ち上がりの湯沢のロング、速攻が決まり、優位にゲームを進めたが、12分過ぎ松山西・柳原のミドル、カットインが効果的に決まり、逆に主導権を握った。松山西は湯沢のロング封じに前へ出るプレス・ディフェンスを敷き、全員がよく動いた。

後半に入り、湯沢はカットイン、速攻で一時は同点に追いついたが、松山西のスピーディな動きに振り回された。また、湯沢は退場者が多く出たのも影響し、最後まで苦しい展開となってしまい、高山のカットイン、佐藤のロングで応戦したが一歩及ばなかった。（楓）

	〔湯沢〕	得
GK	菅原	0
GK	近	0
FP	高山健	7
FP	佐々木一	2
FP	佐々木徹	3
FP	佐藤	6
FP	長沢	1
FP	赤平	1
FP	井上	0
FP	坂本	0
FP	八十田	0
FP	高山康	0
PT	(1)	20

（審・板倉 岩本）

	〔松山西〕	得
GK	福島	0
GK	渡部	0
FP	村上	0
FP	赤松	0
FP	工藤	5
FP	山崎	1
FP	尾崎	4
FP	古川	6
FP	宮内	0
FP	門屋	2
FP	柳原	8
FP	浜本	0
PT	(1)	26

東宇治（京都）25〔9—11 16—9〕20 岡崎城西（愛知）

○…岡崎城西は左と右のプレーヤーを45度におき、セットオフェンスを中心としたチームである。東宇治はスピードプレーを中心に速攻、サイドシュートからの得点が多いチームである。いかに自分たちのペースで試合を展開し、ミスを少なくするかが、ポイントであった。前半決め手がなく一進一退であったが、岡崎城西GKの好守で2点差で折り返した。

後半立ち上がり、岡崎城西のディフェンスが雑になり、東宇治のサイドシュート、カットインが決まり始め、また、岡崎城西はムードに乗れず、オフェンスもミスが目立ちミスからの速攻で東宇治は得点を重ね、後半7点差をつけ逆転勝ちをした。（岩田）

	〔坂西〕	得
GK	小谷	0
GK	酒井	0
FP	丹羽	4
FP	野田	3
FP	坂本	0
FP	河合	4
FP	小田	2
FP	安藤	5
FP	石谷	0
FP	佐藤	2
FP	竹内	0
FP	岩口	0
PT	(1)	20

（審・北山 大原）

	〔東宇治〕	得
GK	船越	0
GK	古川	0
FP	小森	3
FP	田端	7
FP	竹内	5
FP	長谷川	2
FP	間場	0
FP	中村	7
FP	井上	0
FP	正金	1
FP	杜	0
FP	奥田	0
PT	(3)	25

横浜商工（神奈川）26〔12—11 14—5〕16 札幌琴似工（北海道）

○…前半立ち上がりから横浜商工の速い攻撃を札幌琴似工が防ぎきれず、序盤で横浜商工が主導権を握り、その後も多彩な攻めで着実と加点し、前半14—5で大きくリードを奪った。

後半に入っても横浜商工の攻めは変わらず着実に加点したが、それにひきかえ琴似工の攻めは単調で、残り10分を切ってからようやく持ち味を発揮して差を詰めたが、スピード、パワー、テクニックに勝る横浜商工の完勝に終った。（松本）

	〔琴似工〕	得
GK	八重樫	0
GK	山岸	0
FP	佐々木	4
FP	横山	4
FP	長尾	0
FP	高橋	1
FP	石垣	2
FP	三ツ橋	4
FP	古川	0
FP	藤井	0
FP	岩本	1
FP	中野	0
PT	(2)	16

（審・細井 岩永）

	〔横浜商工〕	得
GK	菊池	0
GK	金子	0
FP	小笠原	4
FP	片桐	11
FP	中地	1
FP	田中	0
FP	久保	0
FP	小松	1
FP	小山田	0
FP	荻窪	0
FP	斉藤	9
FP	鈴木	0
PT	(7)	26

野辺地（青森）19〔8—8 11—5〕13 愛知（愛知）

○…立ち上がり愛知のエース・山下がロングシュートを決めれば野辺地のエース・相崎がロングシュートを決め、5分まで2—2の互角の試合となった。その後愛知にミスが目立ち、その間野辺地が着実に得点をあげ、14分には6—3と野辺地がリード。しかし、その後愛知も粘り、前半終了間際に山下がペナルティーを決め8—8の同点とした。

後半に入り、野辺地のキャプテン吹越がカットイン、続いて走り込みながらのロングシュートを決め、さらに横浜がポストシュートと3点を連取した。逆に愛知はミスが目立ち、ロングシュートに頼るのみで他に攻め手がなく、後半

は11—5の一方的な試合となった。（岩橋）

〔愛知〕	得		得	〔野辺地〕
沖野	0	GK	0	横浜与
国光	0	GK	0	沼端
山田浩	0	FP	1	荒谷
山田恵	0	FP	2	江刺家
山下	8	FP	7	横浜良
加藤正	3	FP	5	柏原
加藤誠	1	FP	3	吹越
山村	1	FP	1	岡田
大蔵	0	FP	0	戸館
黒宮	0	FP	0	坪
前田	0	FP	0	原子
柳沢	0	FP	0	本間
13	(2)	PT	(3)	19

（審・中根、秋山）

長崎日大 15〔4—6、11—6〕12 富岡
（長崎）（群馬）

○…互いに気迫のこもったゲーム展開となり、10分まで両チームとも無得点のまま一進一退の試合が続いたが、富岡は本部のカットインプレーによりペナルティーを奪い均衡が破れた。長崎日大は早いつめでディフェンスするが、富岡のスピードある攻撃についていけず、退場者が続出、主将・森賢二が失格となるなど苦しい試合運びとなった。

後半5分、長崎日大は速攻により同点に追いつくとその後連続して得点を重ねリードを広げた。富岡は後半に入ると動きにスピードがなく、長崎日大の激しいディフェンスに攻めあぐね、再三の得点チャンスをものにすることができなかった。ディフェンスに甘さがあるが、スピードに勝る長崎日大が逃げきった。（井上）

〔富岡〕	得		得	〔長崎日大〕
清水	0	GK	0	法村
園部	0	GK	0	増見
倉沢	0	FP	0	森賢
田村	4	FP	3	森勝
武井	0	FP	3	角
勅使河原	0	FP	1	中野
安藤	2	FP	2	喜佐田
黒沢	0	FP	6	林
井上	1	FP	0	石本
岡部	1	FP	0	松本
木部	1	FP	0	濱口
篠崎	3	FP		
12	(4)	PT	(5)	15

（審・斉藤、三枝）

高岡向陵 25〔12—14、13—7〕21 添上
（富山）（奈良）

○…両チームともボール扱いシュート力に優れたものをもち、終始白熱した攻防を展開した。

前半は、高岡ディフェンスの一瞬のスキをついた添上のポスト、カットインが奏功し、添上の2点リードで終った。後半立ち上がり添上はポストにこだわりミスから自滅、逆転を許した。その後もよく食い下がったが、あせりからかスタミナをロスし、ディフェンスの足も止まり高岡の大きな攻撃を許す結果となった。残り10分の添上の攻撃の淡白さも惜しまれる。（青木）

〔添上〕	得		得	〔高岡向陵〕
深瀬	0	GK	0	布橋
		GK	0	松井
阪本	5	FP	5	広瀬
葛西	4	FP	7	杉沢
神薗	0	FP	1	土平
岩田	2	FP	7	大角
山本	6	FP	0	井戸
鈴木	1	FP	4	藤井
河島	0	FP	1	山崎
後藤	3	FP	0	加治
東田	0	FP	0	椎山
		FP	0	塩井
21	(2)	PT	(2)	25

（審・細沢、杉山）

明星 17〔8—4、9—7〕11 高松商
（東京）（香川）

○…前半立ち上がり、両者決め手を欠き、なかなか得点が入らなかった。しかし、5分頃から高松商は明星のディフェンスのミスから3得点をあげた。15分以降、高松商のオフェンスミスから速攻が決まり始め、試合の流れが明星に傾き、前半8—4で折り返した。

後半、両者のパスミス、キャッチミス、オフェンスの反則が多く、速攻からの得点が多かった。しかし、明星のディフェンスのつめが早く、高松商のセットオフェンスの得点がなかなかあげられなかった。また、明星の個人技が高松商よりやや優れ、その差が得点になって表われた。

全体的にミスが多く、オフェンスに課題を残した試合だった。（岩田）

〔高松商〕	得		得	〔明星〕
植田	0	GK	0	伊藤
大橋	0	GK	0	山本
宮武	0	FP	1	松本
造田	4	FP	6	中里
稲沢	5	FP	2	川上
中村	0	FP	0	米山
松本	1	FP	2	坂庭
高尾	0	FP	4	布田
北川	0	FP	0	萩原
村尾	1	FP	0	酒井
		FP	2	清水
		FP	0	神田
11	(1)	PT	(1)	17

（審・中根、秋山）

▼2回戦

大阪商 29〔16—4、13—6〕10 明石北

○…初出場同士の対戦となったが、前半立ち上がり固さが目立ちミスの多い明石北に対して大阪商は、長身の平沼、鹿嶌のロングシュートが確実に決まり、開始6分までに5—0とリードした。その後も明石北はオフェンス、ディフェンスに足が動かず、単調な攻撃が多く大阪商の速攻につながり、点差が大きく開いた。

後半に入っても試合の流れは変らずさらに差が開き、やや緊張感の欠ける試合となった。（細井）

〔明石北〕	得		得	〔大阪商〕
高木	0	GK	0	西田
磯俣	0	GK	0	原口
市川	2	FP	11	平沼
大下	2	FP	6	鹿嶌
大槻	1	FP	0	杉山
山下	2	FP	3	広野
楞野	2	FP	3	藤尾
坂本	1	FP	1	木下
野川	0	FP	5	西山
石井	0	FP	0	大畑
田代	0	FP	0	山口
山本	0	FP	0	安村
10	(1)	PT	(2)	29

（審・斉藤、三枝）

コザ 20〔10—7、10—7〕14 市川
（千葉）

○…コザは神里の意表をつくアンダーシュート、井口のスピード感あふれる速攻など、多彩なシュートで着実に加点。一方市川も長身・有坂のロングシュートを軸に反撃し、10—7で前半を終了

後半も攻撃力に勝るコザが終始

〔市川〕	得		得	〔コザ〕
橋本	0	GK	0	兼島
		GK	0	我喜屋
小池	3	FP	0	西平
榎	0	FP	4	伊沢
野沢	1	FP	0	金城
高橋	0	FP	5	井口
宮川	5	FP	7	渡久地
本間	2	FP	1	安里
横山	0	FP	1	稲福
有坂	3	FP	2	神里
14	(1)	PT	( )0	20

（審・岩本、板倉）

押し気味にゲームを支配した。両チームの気負いのない落ちついた試合ぶりに好感が持てた。（唐沢）

松山西 19〔10—4, 9—10〕14 釧路湖陵（北海道）

○…松山西は、工藤の巧みなパスワークを中心にリードし一方的なゲーム展開になるようにみえたが、シュートミスが目立ち、一方の釧路湖陵は、松山西の1・2・3ディフェンスに苦戦しながらも健闘するが決め手に欠けた。

後半、釧路湖陵も古川の速攻、山本のロングシュートなどで加点し粘りを見せたが、気迫に勝る松山西が勝利を得た。（梶田）

〔湖陵〕	高橋	武田	古川	佐々木	佐藤崇	佐藤央	森田	熊谷	宮内	山本	諏訪	佐藤敦
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	6	1	1	1	0	1	0	4	0	0

14 (1)　PT　（審・遠藤、加藤）

〔松山西〕	福島	渡部	村上	赤松	工藤	山崎	尾崎	古川	宮内	門屋	柳原	浜本
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	0	0	6	5	1	2	0	0	5	0

(1) 19

東宇治 21〔11—11, 10—8〕19 市岐阜商（岐阜）

○…GKの好守もあり10分まで市岐阜商がリードするが、市岐阜商のディフェンスがやや荒く、退場者を出す間に東宇治が追いつく。その後両チーム持ち味を出した攻撃を見せ、全く互角の展開、前半を折り返す。

後半も15分過ぎまで市岐阜商ロング、東宇治サイドとそれぞれの攻撃が冴え互角の展開が続くが、残り10分、市岐阜商のシュートミスから東宇治が一歩リードを奪い、そのまま逃げ切った。（後藤）

〔岐阜商〕	山口清	神戸	尾崎	福田	山口佳	酒井	山北	川崎	平下	黒川	大沼	若山
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	0	2	5	2	9	0	0	0	0	0

19 (1)　PT　（審・千野、後藤）

〔東宇治〕	船越	古川	小森	田端	竹内	長谷川	間場	中村	井上	正金	杜	奥田
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	1	4	6	2	0	3	0	5	0	0

(0) 21

総社（岡山）17〔6—8, 11—7〕15 横浜商工

○…前半立ち上がり30秒、横浜商工は斉藤のサイドシュートをきっかけに着実に得点を重ねたが、総社も横浜の戦法をよく破突し、横浜のミスを誘い速攻などにより得点を重ねる。総社の追い上げムードで横浜の2点のリードで前半を終了。

後半に入っても総社のペースで試合が進められ、後半3分逆転に成功。その後も総社は荒芝の速攻、吉川のポストシュートなどにより点差を広げた。横浜は巧みなパスワークで対応したが、いつものスピードがなく、力を出しきれずに試合を終了した。（尾崎）

〔横浜商工〕	菊池	金子	小笠原	片桐	中地	田中	久保	小松	小山田	荻窪	斉藤	鈴木
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0	9	0

15 (0)　PT　（審・中根、秋山）

〔総社〕	茅原	上村	影山	小池	吉川	頼経	石原	荒芝	佐藤	小脇	岡本
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	2	2	5	0	0	6	0	2	0

(1) 17

久留米工大附（福岡）30〔14—8, 16—6〕14 野辺地

○…開始早々、野辺地・柏崎のロングシュートで先取点。対する久留米工大附は川崎がジャンプ力を生かしたシュートで応戦、17分まで野辺地のGKの好守で6—6。しかし、久留米工大附はディフェンスで野辺地・横浜をマンツーマンし、リズムを狂わす。1年生のGKも堅実なキーピングで守る。その間久留米工大附は着々と加点し前半を14—8。

後半に入り余裕の出てきた久留米工大附はいきなりダブルスカイを決めた。前半からマンツーマンディフェンスにペースを狂わされなかなかペースにのりきれない野辺地は、時おりフェイントシュートでゴールするも点差は開くばかり、単発のシュート、強引なシュートと後半は大味な展開となり、久留米工大附・川崎の大活躍が目についた試合であった。（上原）

〔野辺地〕	横浜与	沼端	荒谷	江刺家	横浜良	柏崎	吹越	岡田	戸館	坪	原子	本間
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	0	3	3	3	4	1	0	0	0	0

14 (0)　PT　（審・板倉、岩本）

〔久工大附〕	福山	篠崎	柴田	田中	弥吉	中山	杉元	久保田	川崎	近藤	菰原	高尾
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	0	2	0	2	2	2	14	2	6	0

(4) 30

長崎日大 27〔10—13, 11—8, 3—2, 3—2〕25 高岡向陵

○…開始1分30秒、高岡向陵・杉山のペナルティースローで先制したが、長崎日大もすかさず中野のポストシュートで同点とした。その後、20分過ぎまで両校とも持ち味を生かした攻撃により一進一退の好ゲームとなった。しかし、前半終了間近、高岡向陵がカットインプレー、ポストプレーで連続得点し13—10の3点リードで前半を終了した。

後半に入って長崎日大のペースをつかみ、中野の速攻などで9分過ぎに逆転した。

しかし、高岡向陵もキーパーシュートや多彩な攻撃で同点とし、最後まで緊迫した試合となり21—21で延長となった。

延長に入ってからも接戦が続いたが、長崎日大がゲームの主導権を握り、2点リードの27—25で勝利を手にした。（伊藤）

〔高岡向陵〕	布橋	松井	広瀬	杉沢	土平	大角	井戸	藤井	山崎	加治	椎山	塩井
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	1	0	5	9	0	6	1	3	0	0	0	0

25 (3)　PT　（審・岩永、細井）

〔長崎日大〕	法村	増見	森賢	森勝	角	中野	喜佐田	林	石本	松本	濱口
	GK	GK	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP	FP
得	0	0	6	2	0	8	2	5	1	0	3

(2) 27

明星 34 〔15―9／19―11〕 20 四日市工

○…立ち上がりから明星は布田、中里を中心に全員が良く動き、確実に点を重ねていった。一方四日市工は初戦とあってかミスが目立ち、苦しいスタートであった。しかし、10分過ぎあたりから選手の動きもほぐれ、速攻からチャンスをつくり追い上げムンードとなった。前半は立ち上がりの差で明星が15―9でリードした。

後半に入って一進一退の攻防かと思われたが、明星・伊藤の好守と速攻で徐々に点差が開き、一方的なゲーム展開となった。自力に勝る明星が34―20と大量得点をあげ、勝利を収めた。（中野）

〔四日市工〕		得
GK	服部	0
	大橋	0
FP	藤井	3
	小林	7
	加藤	1
	功刀	5
	伊藤	0
	帝釈	0
	具島	0
	酒匂	2
	奥野	2
	城田	0
PT	(4)	20

（審・上久保、北井）

〔明星〕		得
GK	伊藤	0
	山本	0
FP	松本	2
	中里	9
	川上	5
	米山	0
	坂庭	2
	布田	11
	萩原	2
	酒井	0
	清水	3
	神田	0
PT	(2)	34

▼準々決勝

コザ 22 〔10―3／12―12〕 15 大阪商

○…立ち上がり安里のロングシュートが決まり、リズムに乗ったコザはのびのびと全員がボールと一体となってゲームを運んだ。また、GK兼島の好キーピングは、チームムードを上昇させた。それにひきかえ大阪商は、コザの好ディフェンスに持ち前のコンビネーションプレーが崩れ、また、平沼、鹿嵩のロングシュートもGKに阻止され、リズムに乗りきれないまま前半終了。

後半大阪商は、平沼のロングが決まり出しリズムに乗りかけたが、コザ・渡久地のロング、ミドルがまたリズムをコザに変えた。大阪商は残り8分から7連続得点をして追い上げたが、時すでに遅しの感が強かった。（不明）

〔大阪商〕		得
GK	西田	0
	原口	0
FP	平沼	7
	鹿嵩	2
	杉谷	0
	広野	2
	藤尾	1
	木下	0
	西山	3
	大畑	0
	山口	0
	安村	0
PT	(0)	15

（審・川島、森）

〔コザ〕		得
GK	兼島	0
	我喜屋	0
FP	西平	0
	伊沢	5
	金城	1
	井口	2
	渡久地	9
	安里	1
	稲福	1
	神里	3
PT	(1)	22

東宇治 22 〔12―9／10―12〕 松山西

○…立ち上がりから東宇治は豊富な個人技によって着々と得点を重ねた。一方松山西は、堅い守りにあい思うような攻めができない。ところが、10分過ぎあたりから動きもかみ合い、工藤のロングシュートなどで追い上げムード。前半は東宇治の3点リードで終了した。

後半に入ると両チームともに点を取られたら取り返すという気の許せないゲーム展開となった。10分過ぎあたりから松山西は柳原らの活躍で徐々に点差をつめ1点を争うゲームとなったが、東宇治GK船越にシュートを阻まれどうしても追いつくことができない。結局1点差を守りぬいた東宇治が、22―21で勝利を収めた。（中野）

〔松山西〕		得
GK	福島	0
	渡部	0
FP	村上	0
	赤松	1
	工藤	7
	山崎	1
	尾崎	2
	古川	3
	宮内	0
	門屋	0
	柳原	7
	浜本	0
PT	(1)	21

（審・北山、大原）

〔東宇治〕		得
GK	船越	0
	古川	0
FP	小森	2
	田端	6
	竹内	4
	長谷川	0
	間場	0
	中村	9
	井上	0
	正金	1
	杜	0
	奥田	0
PT	(6)	22

久留米工大附 31 〔14―8／17―5〕 13 総社

○…立ち上がりから12分まで久留米は川崎のミドルシュートや速攻で得点し、一方総社は石原のカットイン、ミドルシュート、サイドからポストへのスカイプレーなどで4―4の一進一退のゲームであったが、久留米は前によくつめるディフェンスでシュートカット、パスカットから速攻であっという間に点差をつけた。総社もスカイプレー、ミドルシュートなどで返したが、22分には7―14とダブルスコアとなってしまい、前半はその後1点を返すにとどまった。

後半に入っても久留米は速攻、ステップシュートや滞空時間の長いミドルシュートなどで手をゆるめず得点していった。総社もカットインなどから得点していったが、久留米の厚いボィフェンスを崩すことができず最後までペースに乗ることができず大差で終了した。（細川）

〔総社〕		得
GK	茅原	0
	上村	0
FP	影山	5
	小池	1
	吉川	2
	頼経	0
	石原	4
	荒芝	1
	佐藤	0
	小脇	0
	岡本	0
PT	(1)	13

（審・上久保、北井）

〔久工大附〕		得
GK	福山	0
	篠崎	0
FP	柴田	0
	田中	6
	弥吉	1
	中山	0
	杉元	3
	久保田	4
	川崎	12
	近藤	3
	孤原	2
	高尾	0
PT	(0)	31

長崎日大 19 〔10―6／9―9〕 15 明星

○…はじめ10分間明星が3連取したが、その後長崎日大が明星のミスを誘っての速攻などで着実に得点を重ね、守ってはフットワーク良く明星の攻撃を食い止め、20分までに8連取し8―3とする。その後明星はロング、速攻などで得点するも10―6と長崎日大リードで前半終了。

後半に入っても長崎日大のペースは衰えず、カットイン、ポストなどで着々と加点した。明星はあせりからか攻撃のリズムが単調になり16分16―8。その後、長崎日大は急に足が止まりミスが重なって明星が布田のエネルギッシュなカットインなどの活躍で残り2分3点差まで必死に追い上げるが、長崎日大・林のミドルで突き放した。明星は後半出足のリズムの悪

さが悔やまれるゲームであった。（加藤）

	〔明星〕	得
GK	伊藤	0
GK	山本	0
FP	松本	2
FP	中里	4
FP	川上	0
FP	米山	0
FP	坂庭	2
FP	布田	5
FP	萩原	2
FP	酒井	0
FP	清水	0
PT	(2)	15

	〔長崎日大〕	得
GK	法村	0
GK	増見	0
FP	森賢	6
FP	森勝	2
FP	角	0
FP	中野	5
FP	喜佐田	0
FP	林	5
FP	石本	0
FP	松本	0
FP	濱口	1
PT	(4)	19

（審・杉山 細沢）

▼準決勝

コザ 20 〔5－9 15－9〕 18 東宇治

○…両チームとも立ち上がりからミスが多く互いに相手の動きをうかがい、遅いペースのゲーム展開となった。東宇治はスピードのないコザの攻撃に対し、早いつめからボールを奪い速攻に持ち込み加点しリードを奪った。コザは集中力に欠け、持ち味のバネを生かしたコンビネーションプレーに結びつけることができず前半を終了した。

後半に入っても東宇治は勢いが衰えず、逃げきるかに見えたが、残り3分、コザは粘り強く同点に追いつき、終了1分前には伊沢の速攻とポストプレーで得点し勝利をものにした。（細井）

	〔東宇治〕	得
GK	船越	0
GK	古川	0
FP	小森	1
FP	田端	5
FP	竹内	4
FP	長谷川	1
FP	間場	0
FP	中村	5
FP	井上	0
FP	正金	2
FP	杜	0
FP	奥田	0
PT	(2)	18

	〔コザ〕	得
GK	兼島	0
GK	我喜屋	0
FP	西平	0
FP	伊沢	6
FP	金城	2
FP	井口	0
FP	渡久地	2
FP	安里	2
FP	稲福	8
FP	神里	0
PT	(1)	20

（審・細井 岩永）



九州勢同士の決勝となったが、久留米工大附が逃げ切った

久留米工大附 25 〔12－7 13－12〕 19 長崎日大

○…前半始まってすぐ久留米は長崎日大・林にマンツーをして自分のペース（ポストを使う）で試合を進めた。中盤長崎日大が奮起して1点差までつめよったが、残り5分で久留米が4点連取して前半12－7とリードした。

後半10分までは一進一退の攻防が続いたが、久留米はディフェンスの良さと相手のミスによりじわじわと点差を広げた。最後、長崎日大が追い上げたが、前半のリードがものをいい、結局6点差で久留米が長崎日大を破った。（青木）

	〔長崎日大〕	得
GK	法村	0
GK	増見	0
FP	森賢	3
FP	森勝	2
FP	角	0
FP	中野	9
FP	喜佐田	1
FP	林	3
FP	石本	1
FP	松本	0
FP	濱口	0
PT	(0)	19

	〔久工大附〕	得
GK	福山	0
GK	篠崎	0
FP	柴田	0
FP	田中	3
FP	弥吉	0
FP	中山	2
FP	杉元	2
FP	久保田	6
FP	川崎	6
FP	近藤	2
FP	菰原	4
FP	高尾	0
PT	(6)	25

（審・杉山 細沢）

▼決勝

久留米工大附 26 〔14－10 12－10〕 20 コザ

○…九州代表同士の戦いとなった男子決勝。コザのスローオフで試合開始である。久留米は、コザのエース渡久地をマンツーで守る作戦に出て、攻撃型チームのコザの持ち味であるスピードあるプレーを封じ、攻撃では高さと脚力を生かしたフェイントでコザディフェンスを切り崩し、ペースをつかむ。しかし、コザも5対5の攻めをポストプレー、サイドへのずらしなど幅広い展開で応戦し、久留米に迫っていく。前半はやや攻撃のミスが目立ったコザを速攻へとつないだ久留米がリードして折り返した。

後半の見どころは、コザの攻撃であるが、エースを完全に封じられ久留米ディフェンスのフットワークに攻め手を見失った感があり、終盤久留米ディフェンスが甘くなったところで猛反撃を見せ、一時は3点差までつめ寄るが、いかんせんディフェンスのつめが悪く、久留米に要所で得点を許してしまう。結局終始安定した試合運びで攻守ともに地力のある久留米工大附が勝利を収め、優勝の栄冠をものにした。（渡辺）

	〔コザ〕	得
GK	兼島	0
GK	我喜屋	0
FP	西平	0
FP	伊沢	2
FP	金城	5
FP	井口	0
FP	渡久地	6
FP	安里	2
FP	稲福	3
FP	神里	2
PT	(3)	20

	〔久工大附〕	得
GK	福山	0
GK	篠崎	0
FP	柴田	0
FP	田中	4
FP	弥吉	1
FP	中山	2
FP	杉元	2
FP	久保田	3
FP	川崎	9
FP	近藤	0
FP	菰原	4
FP	高尾	0
PT	(3)	26

（審・川島 森）

〈女子〉小松市女が2年ぶり5回目の優勝

▼1回戦

佼成学園女（東京）13〔10−6 3−6〕12 東宇治（京都）

○…両チームとも遅いペースの試合運びであったが、立ち上がり10分、ミスの目立つ東宇治のスキにつけ込み速攻で佼成がリードを奪った。しかし、佼成も肝心なところでのミスが目立ちリードを広げることができず、雑な試合運びとなった。

後半に入り、佼成は攻撃にスピードがなくなり、東宇治の粘り強いディフェンスに手こずり、1点差を競う戦いとなった。東宇治は佼成・竹吉の退場の間に同点に追いつきペースをつかむかに見えたが、セット攻撃に勝る佼成が逃げ切った。最後まで両チームともにミスの多い試合であった。（浅井）

得	〔佼成〕		〔東宇治〕	得
0	和田	GK	村上	0
0	宇井			
3	永田	FP	正木	6
0	佐藤		河原	1
6	竹吉	（審・川島 森）	榊原	1
3	寛		中辻	2
0	深澤		澤	0
1	近藤		塩塚	0
0	天野		植村	0
0	真名子		宇野	0
0	大家		山本	1
0	湯野川		土岡	1
13	(2)	PT	(4)	12

水海道二（茨城）19〔9−3 10−7〕10 今治北（愛媛）

○…まず試合の主導権をとったのは、小沼のロングシュートによる水海道二であった。今治北は、フェイントからのカットイン、ポストプレーを中心にチャンスをつくろうとしたが、相手チームのディフェンスは厚く思うように点をあげることができない。これに対し水海道二は、守って速攻の理想的なパターンで徐々に点差を開き前半を9−3でリードした。

後半に入ると、今治北は井手を中心によくがんばり得点するが、水海道二のリズムを狂わすには及ばず、結局19−10で終了した。

水海道二は攻守ともにバランスのとれたチームであり、2回戦以後活躍の期待されるチームの一つである。（中野）

得	〔水海道二〕		〔今治北〕	得
0	篠崎	GK	渡辺	0
0	小松崎		須田	0
1	林	FP	明比	3
1	田中		井手	3
0	古谷	（審・北山 大原）	尾崎	1
4	山岸		村井	2
4	小林		本宮	0
4	小沼		近藤	1
2	鈴木		大澤	0
0	高野		徳井	0
3	若林		織田	0
0	三輪		木原	0
19	(2)	PT	(1)	10

読谷（沖縄）30〔14−10 16−7〕17 上磯（北海道）

○…立ち上がり5分、読谷は比嘉のロングシュートなどで4−1とリード。一方、上磯はエース山本のロングシュートなどで点差を縮め、13分過ぎ柴田のポストシュートで同点に追いついた。その後は1点を争うゲーム展開となった。しかし19分過ぎ、比嘉、池原らが連続シュートを決め、読谷が前半を14−10とリード。

後半10分過ぎまでに前半の流れを変えることなくチャンスを確実に生かした読谷は、キャプテン松田らの活躍で、20−11と9点差をつけた。上磯も必死に吉野、高田、白幡、大沢らが加点するが、点差は縮まらなかった。（梶田）

得	〔読谷〕		〔上磯〕	得
0	松田千	GK	久保田	0
0	仲程		伊藤昭	0
11	比嘉恵	FP	鷲尾	1
11	池原		山本	3
7	松田百	（審・遠藤 加藤）	吉野	3
0	知花		伊藤奈	0
0	仲宗根		高田	3
0	宮城		白幡	3
0	仲井		大沢	2
0	知念		柴田	2
0	比嘉寿		藤本	0
1	大湾		腰本	0
30	(1)	PT	(0)	17

中京女大付（愛知）28〔11−6 17−3〕9 盛岡二（岩手）

○…前半のびのびとプレーをする中京女大付が、固さのとれない盛岡二に大西の大活躍に11分には8−3とリード。しかし、中京女大付の攻めが雑になり、じりじりと盛岡二がとり返し、15分には8−5。その後中京女大付も再びペースをとり戻し、11−6で前半を終了。

後半も立ち上がりから、終始中京女大付のペースのままで、盛岡二の攻めが単調で、またPTも中京女大付のGKに好守されペースをつかむことができなかった。結局28−9と大差で中京女大付の勝利となった。（澤）

得	〔中京女〕		〔盛岡二〕	得
0	矢野	GK	西川	0
0	星野		島田	0
3	橋本	FP	鈴木	3
14	大西		杉澤	3
4	羽木	（審・杉本 工藤）	兼平	0
4	田嶋		藤島	2
2	井上		片岸	0
1	友岡		澤田	0
0	中嶋		熊谷	0
0	青地		北村	1
0	野原		村井	0
0	伊藤		高橋	0
28	(4)	PT	(0)	9

有磯（富山）20〔12−9 8−4〕13 釧路湖陵（北海道）

○…速攻主体の有磯と遅攻主体の釧路湖陵の対戦となり、序盤戦は一進一退の攻防が続いたが、15分有磯が速攻により2点を連取、前半は有磯のペースで終了した。

後半も走力の増す有磯が、速攻で着実に得点を重ね勝利を飾った。（記入者不明）

得	〔有磯〕		〔湖陵〕	得
0	坂	GK	新井田	0
0	坂本			
3	田畑	FP	今井	2
0	川端		早川	6
0	徳前	（審・上久保 北井）	中里	0
3	野畑		菅原	4
2	村田		鶴島	1
1	谷内		清原	0
6	海ヶ倉		高橋	0
4	目代		広保	0
1	中川		村上	0
0	町口		斉藤	0
20	(0)	PT	(0)	13

名短付（愛知）21〔11−3 10−2〕5 明石（兵庫）

○…立ち上がりお互いに固さが見られミスが続き、約7分間得点のないゲーム展開となる。先取点は名短付で、相手シュートミスから速攻にもち込み、3対2の形からサイドにずらして得る。その後すぐに速攻で追加点をあげる。前半の中ばまで明石はボールが手につかず攻撃でミスが目立つ。名短付は14分GK村山の好守から得意の速攻で加点、以後得点差を広げ11−3で前半を終了。

後半も名短付は明石の単調な攻めに助けられ、持ち前の速攻でコート狭しと動き走り回り追加点をあげ、試合を一方的なものとした。

今大会屈指のGK、名短付の村山は前評判通りの好守の一端を見せてくれた。（永田）

得	〔名短付〕		〔明石〕	得
0	村山	GK	柳川	0
0	栗田		菊本	0
5	伊豫田	FP	川上	1
1	村上		戒谷	1
3	河淵	（審・千野 後藤）	大西	0
0	丹羽		倉元	1
3	那須		栗脇	0
4	岩野		斉藤	0
4	日比野		中来田	0
1	寺床		宮崎	2
0	岩井田		大重	0
0	丸山		米分	0
21	(2)	PT	(0)	5

熊本女商（熊本） 14 〔8—6 6—3〕 9 **本巣**（岐阜）

○…攻守ともによくまとまった熊本女商と小柄ながらキビキビとした動きが持ち味の本巣との対戦は、試合開始よりスピーディな試合運びとなった。本巣はサイドへのずらしを中心にセットで展開し、熊本女商は1—5のディフェンスから守りを固め、速攻で得点を重ねる一進一退の好ゲーム。本巣はGK杉山の再三にわたる美守とそつのないプレーでイニシアチブを取ろうとするが、熊本女商もサウスポーのエースヒッター斉藤を中心に組み立てるコンビプレーが冴え始め応戦し、折り返し8—6と熊本女商が一歩リード。

後半になると両チームとも攻撃が単調になり、得点がなかなか伸びない。結局、終盤に酒井、斉藤の活躍で地力に勝る熊本女商が勝利を収めた。（渡辺）

〔本巣〕

	選手	得
GK	杉山	0
GK	長谷部	0
FP	青山	5
FP	鷲見	0
FP	大井	0
FP	加納	1
FP	田中	2
FP	河田	1
PT		(3)
		9

〔熊女商〕

	選手	得
GK	清田	0
GK	平田	0
FP	河上	2
FP	酒井	3
FP	斉藤	7
FP	河野	0
FP	田野辺	0
FP	土本	2
FP	野角	0
FP	久保田	0
PT		(2)
		14

（審・遠藤 加藤）

川口青陵（埼玉） 16 〔9—5 7—2〕 7 **牧園**（鹿児島）

○…前半10分まで両チームとも決め手を欠き、ディフェンスに近いプレーで得点が伸びない。10分過ぎ、川口青陵は村田のカットインと好リードで徐々にペースをつかみ得点を重ねた。一方牧園はミスが続き、思くようにプレーができず9—5と川口青陵リードのまま前半を終了した。

後半に入っても川口青陵の村田の速いプレーに牧園のディフェンスがかき回され、川口青陵のリードが続く。守っては川口青陵のGK太田の好守に牧園は得点ができず終始リードのまま川口青陵が快勝した。（高須）

〔牧園〕

	選手	得
GK	川島	0
GK	山下	0
FP	吉森	0
FP	境田	2
FP	簗瀬	1
FP	倉田	3
FP	蜂須賀	0
FP	池田	1
FP	内田	0
FP	米村	0
FP	五百路	0
FP	松元	0
PT		(1)
		7

〔青陵〕

	選手	得
GK	半藤	0
GK	太田	0
FP	天野	2
FP	斉藤	1
FP	宮下	0
FP	中野悦	2
FP	七木田	0
FP	中野有	0
FP	佐藤	2
FP	厚沢	0
FP	村田	6
FP	萩原	3
PT		(3)
		16

（審・島崎 尾高）

郡山女（福島） 18 〔9—8 9—7〕 15 **国学院栃木**（栃木）

○…前半立ち上がりから両チームともミスが目立ち、一進一退の攻防となった。速攻による得点がなく、セットによる展開からポスト、サイドへの揺さぶりからの得点によるものが多く、前半は郡山女1点リードで終了。

後半に入り郡山女は左腕・柳内のロング、ステップシュートが決まり、またアシストをしても確実なプレーを見せ、着々と加点し試合を優位に進めた。

国学院栃木は最後まで粘ったが、あと一歩及ばなかった。（楓）

〔国学院〕

	選手	得
GK	青木	0
GK	山本	0
FP	吉田	4
FP	川田	2
FP	神長	3
FP	小島	4
FP	小林	1
FP	森田	1
FP	渡辺	0
FP	松本	0
FP	樋口	0
FP	上田	0
PT		(0)
		15

〔郡山女〕

	選手	得
GK	浜尾	0
GK	伊藤	0
FP	吉田	4
FP	小林	0
FP	大河内	3
FP	杉田	0
FP	曽部	0
FP	梅津	1
FP	古籏	0
FP	斉藤	0
FP	柳内	10
FP	影山	0
PT		(1)
		18

（審・板倉 岩本）

▼2回戦

四天王寺（大阪） 16 〔9—6 7—3〕 9 **佼成学園女**

○…東西の大都市の名門が対決したこの一戦、四天王寺・鹿島のパワフルなロングシュートで始まった。

前半、四天王寺の固い1—5ディフェンスを佼成学園女が攻めあぐねミスを連発し、10分で5—1と四天王寺リード。その後四天王寺はロング・速攻と着実にリードを広げ、20分7—2。前半残り5分になってやっと佼成女にエンジンがかかり、近藤、竹吉のロングシュートが入り出し、前半3点差まで追い上げた。

そして後半は両ロングの打ちあいとなり、3点差のまま一進一退が続いたが、残り15分からスピードに勝る四天王寺の速攻が決まり出し、着実に点差を広げタイムアップを迎えた。（木和田）

〔佼成〕

	選手	得
GK	和田	0
GK	宇井	0
FP	永田	1
FP	佐藤	0
FP	竹吉	5
FP	筧	0
FP	深沢	0
FP	近藤	2
FP	天野	0
FP	真名子	0
FP	大家	1
FP	湯野	0
PT		(0)
		9

〔四天王寺〕

	選手	得
GK	味志	0
GK	清水	0
FP	篠原	5
FP	大野	0
FP	岡村	3
FP	鹿島	4
FP	中筋	2
FP	樋下	2
FP	村山	0
FP	田中	0
FP	橋本	0
FP	蓮本	0
PT		(2)
		16

（審・川島 森）

暁（三重） 23 〔13—5 10—7〕 12 **水海道二**

○…開始まだ固さの見られる両チーム、3分暁・中田のステップシュート、水海道二ポストシュートで応戦する。フリースローからのシュート、サイドシュート、速攻と着々と加点する暁に対し、中盤から足の止った水海道二はポストへのパスも通らず、ロングシュートで頑張るが、18分に10—5とダブルスコアとなる。何とか前半に10—7としたが、後半も暁が相手のパスミスから速攻、セットでのステップで着々と加点し、暁の一方的なペースとなってしまった。最後までゲームを捨てず頑張る水海道二であったが、暁・中田

〔水海道二〕

	選手	得
GK	篠崎	0
GK	小松崎	0
FP	林	0
FP	田中	1
FP	古谷	0
FP	山岸	1
FP	小林	3
FP	小沼	4
FP	鈴木	1
FP	高野	0
FP	若林	2
FP	三輪	0
PT		(1)
		12

〔暁〕

	選手	得
GK	片岡	0
FP	上山	0
FP	柴田	0
FP	内田	3
FP	三宅	4
FP	山崎	2
FP	矢野	2
FP	中田	5
FP	永峰	7
PT		(6)
		23

（審・千野 後藤）

の力強いシュートに圧倒されたゲームであった。（上原）

小松市女（石川）27〔14－6 13－3〕9 読谷

○…スピード、シュート力など総合力で上回る小松市女に読谷がどう挑むかが見どころであるが、予想通り試合開始より終始小松市女が読谷を圧倒。とくに小松市女のパスの速さ、サイドへのずらしは素晴らしく、読谷ディフェンスはパス回しについていくのがやっとの感じ。しかし、読谷は小松市女ディフェンスの間げきをぬってポストプレーなどで得点し、GKの好守でゲームを引き締めて意地を見せて健闘。点差の割には充実した試合となった。結局、トリプルスコアーと小松市女の強さが印象づけられた試合であった。（渡辺）

	〔読谷〕	得	〔小松市女〕	得
GK	松田千	0	木戸	0
GK	仲程	0	岩井	0
FP	比嘉恵	1	千秋	4
FP	池原	1	松田	5
FP	松田百	3	林	10
FP	知花	0	下出	0
FP	仲宗根	0	上田	2
FP	宮城	2	桜井	4
FP	仲井間	0	池田	0
FP	知念	0	奥村	2
FP	比嘉	1	橋	0
FP	大湾	1	竹田	0
PT		(0)		(2)
		9		27

（審・島崎 尾高）

山陽女（広島）21〔10－12 11－5〕17 中京女大付

○…両チームとも速い動きを身上とするスピードあふれるプレーで応酬、まず中京女大付・大西がカットイン、ペナルティー、サイドと3連続得点。山陽女も5分過ぎから次第にペースをつかみ、川井の3連続ペナルティーで同点とし、173cmの高いポストを巧く使って11分7－4とペースを奪った。しかし中京女大付は15分過ぎから速いローリングで、山陽女ディフェンスをかき回し、再びペースを奪い12－10。

後半に入り山陽女ディフェンスがよく動き、中京女大付のオフェンスが単調になり10分間無得点。その間山陽女がロングなどで4連取し14－12と逆転に成功。その後中京女大付・大西の3連続得点とペースをつかんで15分、15－15。とればとり返す展開となったが、残り2分から山陽女がポストプレーなどでのペナルティーを川井が3本連続して慎重に決めて中京女大付を突き放した。

双方のチームともスピードがあり、好ゲームであった。（加藤）

	〔中京女〕	得	〔山陽女〕	得
GK	矢野	0	小林	0
GK	星野	0	斉藤	0
FP	橋本	3	田中	5
FP	大西	9	橋本	1
FP	羽木	3	山本	0
FP	田嶋	2	川井	9
FP	井上	0	稲田	6
FP	友岡	0	坂本	0
FP	中嶋	0	森山	0
FP	青地	0	茶村	0
FP	野原	0	谷口	0
FP	伊藤	0	上田	0
PT		(3)		(8)
		17		21

（審・細沢 杉山）

高松商（香川）24〔15－2 9－13〕15 有磯

○…北信越対四国の対決は、セットでは有磯がセンター3からのクロス攻撃に対し高松商は45度を中心とした基本的なダブルの攻撃と伝統的攻撃法の対決となった。前半速攻スピードの勝る高松商が快調に飛ばし、セットで桃本がロング、カットインと多彩な攻撃を見せ、速攻では一次、二次ともに有磯を圧倒し、15－2と有磯につけいるスキを与えなかった。

後半に入りやっと有磯にエンジンがかかり、前半とは見違えるほどのスピードあふれる展開となり、エース目代の活躍などで高松商を上回る勢いを見せたが、前半の借金があまりに大きすぎ、惜しまれる一戦となった。（木和田）

	〔有磯〕	得	〔高松商〕	得
GK	坂	0	鎌田	0
GK	坂本	0	松川	0
FP	田畑	1	細谷	0
FP	川端	0	桃本	9
FP	徳前	0	末包	0
FP	野畑	1	福崎	2
FP	村田	2	田中	0
FP	谷内	0	赤根	3
FP	海ヶ倉	3	橘	4
FP	目代	6	藤澤	2
FP	中川	2	中山	0
FP	町口	0	木村	4
PT		(0)		(4)
		15		24

（審・杉本 工藤）

名短付 22〔14－4 8－7〕11 彦根商（滋賀）

○…名短付は速攻、ロングシュートで着実に得点を重ねる。一方彦根商は名短付の固いディフェンスの前に得点をすることができず、前半は14－4と名短付リードで終了。

後半に入り、彦根商は立ち上がり5分までにポストプレー、速攻で得点を重ねる。しかし、名短付のスピードあふれる攻撃の前にリズムに乗ることができず、結果22－11でゲームを終了した。（菅原）

	〔彦根商〕	得	〔名短付〕	得
GK	石塚	0	村山	0
GK	川幡	0	栗田	0
FP	又川	2	伊豫	0
FP	大矢	1	村上	4
FP	滝	1	河淵	5
FP	北川	1	丹羽	0
FP	松田	2	那須	0
FP	小管	0	岩野	9
FP	小島	0	日比野	4
FP	森	3	寺床	0
FP	石田	0	岩井	0
FP	木村	1	丸山	0
PT		(3)		(3)
		11		22

（審・細沢 杉山）

川口青陵 18〔9－8 9－8〕16 熊本女商

○…前半、速攻と手渡しパスからのポストで相手ディフェンスを崩し得点を重ねた川口青陵とオーソドックスな攻めから得点をあげた熊本女商とで一進一退のゲームを展開し、熊本女商の1点リードで終了した。

後半に入っても川口青陵のセット攻撃が冴えわたり着実に加点したのに対し熊本女商カットインと斉藤のロングで対抗したが、川口青陵が村田らの活躍によりせり勝った。（松本）

	〔熊女商〕	得	〔青陵〕	得
GK	清田	0	半藤	0
GK	平田	0	太田	0
FP	河上	2	天野	0
FP	酒井	2	斉藤	2
FP	斉藤	7	宮下	0
FP	河野	1	中野悦	3
FP	田野辺	2	七木田	1
FP	土本	3	中野有	2
FP	野角	0	佐藤	3
FP	吉丸	0	厚沢	0
FP	久保田	0	村田	5
FP	内田	0	萩原	2
PT		(3)		(2)
		16		18

（審・斉藤 三枝）

岩国商（山口）19（9－5、10－8）13 郡山女

○…両チームとも攻め手がなくまた、ロングシュートが決まらず、オーバーステップ、チャージングの多いゲームであった。ただ相手のミスからの速攻に違いがあり、岩国商のキャプテン横田が速攻を4本決め、9－5と岩国商が前半をリードした。

後半に入ってもゲームのペースは変らず、15分まではシーソーゲームであった。しかし、17分に相手のミスから岩国商・横田が連続2本速攻を決め、試合を決めた形となった。（岩橋）

得	〔郡山女〕		〔岩国商〕	得
0	浜尾	GK	石井	0
0	伊藤	GK	中村	0
1	吉田	FP	桑田	0
1	小林	FP	国広	2
1	大河内	FP	西村	1
0	杉田	FP	沖田	1
2	曽部	FP	増田	3
1	梅津	FP	横田	10
0	古簱	FP	蔵野	0
0	斉藤	FP	石村	2
7	柳内	FP	香井	0
0	影山	FP	藤田	0
13	(3)	PT	(5)	19

（審・北山 大原）

▼準々決勝

四天王寺 19（10－6、9－6）12 暁

○…前半立ち上がりから両チームとも早いペースの展開となった。四天王寺はエース鹿島のロングシュートとパスカットからの速攻で着々と加点しリードを広げた。それに対して暁は、四天王寺の中盤の早いつなぎについていけず、また持ち味のコンビネーションプレーにミスが目立ち、苦しいゲーム運びとなった。

後半に入り立ち上がり暁も反撃するが、動きにスピードがなく、四天王寺のディフェンスを破ることができなかった。四天王寺は後半に入っても篠原を中心によく動き、暁のミスから速攻に転じて勝負をものにした。（細井）

得	〔暁〕		〔四天王寺〕	得
0	片岡	GK	味志	0
		GK	清水	0
0	上山	FP	篠原	8
0	柴田	FP	大野	3
2	内田	FP	岡村	1
2	三宅	FP	鹿島	4
3	山崎	FP	中筋	2
1	矢野	FP	樋下	1
3	中田	FP	村山	0
1	永峰	FP	田中	0
		FP	橋本	0
		FP	蓮本	0
12	(0)	PT	(0)	19

（審・細井 岩永）

小松市女 13（6－3、7－4）7 山陽女

○…前半、始めお互い固さが目立ち7分まで無得点。優勝候補といわれる小松市女はシュートミスが多く、山陽女は攻め手がなく長い攻撃時間を使い、得点差を開かれずにいた。15分頃から小松市女・千秋のサイド、林のミドルシュートが入り、小松市女ペースになるかと思えたが、波に乗れなかった。

後半、山陽女GKの好守により得点差は開かなかったが、山陽女の攻撃力のなさから得点を重ねることができず、地力に勝る小松市女がじわじわと得点を重ね、結局13－7で山陽女を破った。（青木）



開会式で選手宣誓をする地元・名短附主将・伊豫田選手

得	〔山陽女〕		〔小松市女〕	得
0	小林	GK	木戸	0
0	斉藤	GK	岩井	0
1	田中	FP	千秋	3
0	橋本	FP	松田	1
0	山本	FP	林	4
4	川井	FP	下出	0
2	稲田	FP	上田	0
0	坂本	FP	桜井	3
0	森山	FP	池田	1
0	茶村	FP	奥村	1
0	谷口	FP	橘	0
0	上田	FP	竹田	0
7	(3)	PT	(1)	13

（審・中根 秋山）

名短付 24（9－6、15－6）14 高松商

○…名門同士の対決となったこの一戦、前半立ち上がりから両者スピードあふれる展開を見せ、セットではほぼ互角の戦いを見せ、混戦模様となった。主導権を握ったのは名短付で速攻スピードとGKの大活躍で前半1点のリード。

後半に入り高松商・桃本のロングで同点となったが、名短付のボール回しの早い一次、二次速攻が波に乗り得点を重ね、残り10分7点のリード。その後高松商も木村の活躍で必死の粘りを見せるが、エース桃本が名短付ディフェンスの早いチェックに合い、本来の動きを封じられてしまったのが残念であった。（木和田）

得	〔高松商〕		〔名短付〕	得
0	鎌田	GK	村山	0
0	松川	GK	栗田	0
0	細谷	FP	伊豫田	4
2	桃本	FP	村上	8
0	末包	FP	河淵	0
1	福崎	FP	丹羽	0
0	田中	FP	那須	4
0	赤根	FP	岩野	5
3	橘	FP	日比野	1
1	藤澤	FP	寺床	2
0	中山	FP	岩井田	0
7	大村	FP	丸山	0
14	(1)	PT	(1)	24

（審・加藤 遠藤）

川口青陵 19（10－6、9－7）13 岩国商

○…前半、開始後5分で川口青陵は中野のポストプレーを中心に5－1とリードした。7分過ぎ、岩国商は速攻、サイドシュートにより5－5の同点に追いついたが、パスミス、シュートミスが目立ちなかなか得点に結びつかず、セットオフェンス力に勝る川口青陵が確実に得点を加え10－6とリード

得	〔岩国商〕		〔青陵〕	得
0	石井	GK	半藤	0
0	中村	GK	太田	0
0	桑田	FP	天野	0
1	国広	FP	斉藤	1
0	西村	FP	宮下	0
1	沖田	FP	中野悦	4
4	増田	FP	七木田	4
5	横田	FP	中野有	2
0	蔵野	FP	佐藤	1
2	石村	FP	厚沢	0
0	香井	FP	村田	6
0	藤田	FP	萩原	1
13	(1)	PT	(1)	19

（審・島崎 尾高）

し前半を終了。

後半に入り岩国商は反撃を開始したが、2本連続してペナルティーをはずすなどなかなかリズムがつかめず、その後波に乗る川口青陵は七栩、村田が得点を加え、岩国商を突き離し、勝利を収めた。(花井)

▼準決勝

小松市女20 〔11—6 / 9—2〕 8四天王寺

○…前半立ち上がりは両チームともに素晴しいディフェンスで得点を許さなかったが、3分、四天王寺・鹿島のロングが決まり先制をした。しかし、小松市女も4分、林がロングを決め同点とし、その後小松市女の松田、林と四天王寺・鹿島のフローターの打ち合いとなり、一進一退をくり返した。地力に勝る小松市女は14分林のカットインからのシュートを口火に桜井の難しい体勢からのシュートや林のステップシュートなどで四天王寺を引き離しにかかった。前半終了間際、四天王寺は鹿島のミドル、篠原のポストシュートで2点を返したが、11—6で前半を終了した。

後半に入っても、四天王寺は小松市女の完璧ともいえるディフェンスに阻まれ、僅か2点に押さえられ、終始小松市女ペースで試合が進行し、20—8の大差で小松市女が圧勝した。(若山)


女子優勝旗は小松市女の林選手の手に

得	〔小松市女〕		〔四天王寺〕	得
0	木戸	GK	味志	0
0	岩井	GK	清水	0
3	千秋	FP	篠原	1
4	松田	FP	大野	0
11	林	FP	岡村	0
0	下出	FP	鹿島	5
1	上田	FP	中筋	2
1	桜井	FP	樋下	0
0	池田	FP	村山	0
0	奥村	FP	田中	0
0	橘	FP	橋本	0
0	竹田	FP	蓮本	0
20	(2)	PT	(1)	8

(審・杉本、工藤)

名短付32 〔18—6 / 14—7〕 13川口青陵

○…前半は川口青陵と名短付のディフェンスの差が出た。川口青陵は村田を中心にポストへのパスへのフォーメーションを多用したが、名短付の堅いディフェンスに阻まれミスを連発し、名短付に速攻を許した。10分までに8—2と差を広げ、前半終了では18—6で折り返した。

後半も川口青陵は名短付の堅いディフェンスにてこずり、ミスが目立ち、ミスから速攻へとつなぎ、点を重ねていった。結局32—13で終わり、得点の通りの実力の差が全ての面で出ていた。しかし、初出場ながら3位になった川口青陵には健闘をたたえる。(岩田)

得	〔名短付〕		〔青陵〕	得
0	村田	GK	半藤	0
0	栗田	GK	太田	0
6	伊豫田	FP	天野	0
3	村上	FP	斉藤	3
2	河淵	FP	宮下	0
0	丹羽	FP	中野悦	1
3	那須	FP	七木田	2
9	岩野	FP	中野有	1
4	日比野	FP	佐藤	2
5	寺床	FP	厚沢	0
0	岩井田	FP	村田	1
0	丸山	FP	萩原	3
32	(1)	PT	(3)	13

(審・北山、大原)

▼決勝

小松市女16 〔5—3 / 11—3〕 6名短付

○…昨年同様、愛知の名短付と石川の小松市女の強豪同士の戦いとなった。

序盤戦では両チームともに堅い守りにより緊迫したゲームが続いたが、小松市女・桜井のサイドシュートにより均衡が破れた。小松市女は再三のチャンスを名短付GKの好守によりいかすことができなかった。しかし、林のロングシュートにより得点を連取し、優位に前半を終了した。

後半に入って名短付はロング、サイドシュートで追い上げを見せるが、小松市女の高いディフェンスに攻めあぐんだ。小松市女はリズムに乗り速攻、ロングと着実に得点を重ね、点差を広げていった。結局シュート力に勝る小松市女が優勝を飾った。(浅井)

得	〔小松市女〕		〔名短付〕	得
0	木戸	GK	村山	0
0	岩井	GK	栗田	0
5	千秋	FP	伊豫田	0
0	松田	FP	村上	1
6	林	FP	河淵	0
1	下出	FP	丹羽	0
0	上田	FP	那須	0
3	桜井	FP	岩野	1
1	池田	FP	日比野	2
0	奥村	FP	寺床	2
0	橘	FP	岩井田	0
0	竹田	FP	丸山	0
16	(3)	PT	(0)	6

(審・上久保、北井)

全日本女子ヨーロッパ遠征

多くのものを学んで帰国

4勝7敗3引き分け

2月24日から3月17日までの22日間、ヨーロッパ（ユーゴ、東ドイツ、フランス）へ遠征していた全日本女子チームが帰国、井監督以下コーチ、選手の全員の方がその遠征の感想文を機関誌編集委員会に寄せてくれました。ここにその遠征の結果と一部の方の感想文（誌面の都合で全員の分が載せられません）を紹介致します。

遠征の結果

〈ユーゴ〉

▽2月26日
ポズポバチ 31〔17－13／14－13〕26 日本

▽2月27日
ユーゴスラビア 33〔15－17／18－10〕27 日本

▽2月28日
日本 25〔14－15／11－8〕23 SREM

▼ソンボル'86トーナメント

▽3月1日
ディナモ（ユーゴ）29〔14－10／15－11〕21 日本

▽3月2日
日本 30〔15－12／15－9〕21 PMSC（ハンガリー）
日本 26〔11－14／15－12〕26 バン・セクキッチ（ユーゴ）

[順位] ①ディナモ②バンセクキッチ③日本④PMSC

〈東ドイツ〉

▼第16回ノイブランデンブルグ・トーナメント

○予選リーグA組

▽3月4日
ハンガリー 37〔20－10／17－11〕21 日本

▽3月5日
オランダ 22〔11－12／11－9〕21 日本

▽3月6日
東ドイツ 31〔14－10／17－11〕21 日本

○5～8位決定リーグ

▽3月7日
東ドイツB 32〔16－9／16－12〕21 日本

▽3月8日
日本 34〔18－9／16－17〕26 ブルガリア

[順位] ①ソ連②東ドイツ③ユーゴ④ハンガリー⑤東ドイツB⑥オランダ⑦日本⑧ブルガリア

〈フランス〉

▽3月12日
日本 23〔11－13／12－10〕23 フランス

▽3月13日
日本 18〔10－13／8－5〕18 フランス

▽3月14日
日本 25〔11－9／14－13〕22 フランスジュニア

全日本女子ヨーロッパ遠征メンバー

〈監　督〉
井　　薫（日本協会強化委員）
〈コーチ〉
樫塚正一（日本協会強化コーチ）
〈選　手〉
●GK
葛生　豊子（日立栃木）
山口　妙美（ジャスコ）
小深田由起子（ジャスコ）
●FP
前田　重子（日立栃木）
岩村　英子（立石電機山鹿）
寺沢　路子（ジャスコ）
池上　由美（立石電機山鹿）
小池　宏子（ブラザー工業）
山岸　和子（日立栃木）
時実　良枝（大崎電気）
下條千恵子（日本ビクター）
武藤由起子（日本ビクター）
野嶋ちえみ（立石電機山鹿）
山内　香代（立石電機山鹿）
市川　千恵（東京重機工業）
井沢由美子（日立栃木）
近藤　育子（ジャスコ）

遠征を終えての感想文から

監督・井　薫

2月24日、日本を出発、ユーゴ、東独、フランスを転戦、18日間で14試合を消化するという超ハードスケジュールの今回の遠征でしたが、幸い事故もなく3月17日に帰国しました。

ロスオリンピックアジア予選後、大巾なメンバーの若返りの中で、1度の訪韓の外は国内の練習で強化をすすめて来ましたが、今冬のオランダでの世界選手権大会、そして明年に迫ったソオル・オリンピックのアジアの予選に備え、個人技量、チーム力の打診、世界のプレイの傾向、レベルの確認などの目的をもった遠征でした。

ユーゴ、フランスでは連日転戦、東独のニューブランデンブルグの大会は、じっくりと腰を落ちつかせてのリーグ形式でしたが、前者は慌しさの中でのコンディショニングが難しく、最後のフランスでは、ゲームが午後9時開始、それからレセプションなどで、就寝は連日午前2時前後。選手たちの疲労もピークに達しましたが、大きい怪我もなく乗り切れた事は日本チームにとって得難い体験であり、逞しさが出てきました。体調の良さについては、暖い沖縄で充分走り込めた事もひとつの要因にあげられると思います。

17回を数えるニューブランデンブルグの大会、ヨーロッパのカップ（大会）の中でも特に権威のあるもので、ソ連をはじめ世界のトップチームが世界選手権のための大切な準備としてこの大会をとらえていまして、ベテランを温存しながら優勝したソ連が、やはりトップに君臨している感じで、東独は若返ったメンバーが力を発揮しはじめた段階、逆に若返りが遅れて苦しいユーゴ（ピスニッチも出場していました）。体格の面でやや劣るハンガリー、第2グループの日本、オランダ、ブルガリアについては、世界選手権大会開催でかなり強化を続けてきたオランダと日本が1点差のゲームで、西欧側チームと同格で横一線ではないかとの評価でしたし、事実フランスナショナルとの二分けもほとんど勝ちゲームであり、日本は攻撃力が増して来た。そしてディフェンスに問題を抱えていると新聞が報じていましたが、その通りだと思いました。2年余の欧州とのブランクを、若い選手たちが14試合を通して特にディフェンスにおいて実感として経験した事は何より

のものでした。
　ソ連・トルーチン、東独クラッチマー、ユーゴ・サマルジャとこの10年程、各国を率いて、更に世界選手権、オリンピックと狙っている各トレーナーたちと旧交を暖めましたが、いずれもが明春に日本を訪問したいとの申し入れがあり、帰国後、日本協会に報告しておきましたが、世界のトップチームが揃うジャパンカップが来年にも実現するかも知れない朗報ですが、実現の方向で検討願う事が、ハンドボールの現状を変える大きな転機となる催しになるかも知れず、夢をもちたいと思います。

　疲労の極にあったフランスの1ゲームを除きますと、残りの13ゲームは20点をこえるようになった日本の攻撃の中心は、社会人2年目を迎える小池選手で、パワフルなシュートは世界に充分通用するものであり、加えて、前田、武藤、野嶋、そしてジュニアから入ったばかりの近藤が大活躍でチームをひっぱりあげてくれました。期待の大きい山岸、山内、下條、市川あたりが、もうひとつ体調、気力を見せてくれると、岩村、寺沢、池上など計算出来るプレイヤーとのからみ、コンビも多くなり、層が厚くなる事で、ゲームの途中でスタミナ切れから陥る数分間の無得点の状況を克服出来ると思います。そうなる事で、もう5点ぐらいの上積みは可能であり、ディフェンスの課題も併せて解消する努力を重ねる事で、オリンピック予選の対中国戦も互角の勝負を挑めるチーム力が備わってくると思います。

　GKはベテラン葛生が頑張り、若手の小深田、山口も持ち味を出してくれましたが、年齢的に葛生と若い2人の中間ぐらいのプレイヤーを配せたらと思います。

　今回は不参加の磯山、林も世界選手権には出場も可能であり、伸び盛りのパワーを注入する事でチームの活性化を計りたいものです。4勝7敗3分けの成績でしたが、3分けは厳しい状況で追いつかれたものであり、監督の立場から3ゲームとも勝ちと評価出来るもので、内容的には7勝7敗の互角であったと思いますが、オランダに1点差で負けたゲームは何んとか勝ちを狙うべきで、ゲームの運び方に課題を残しました。

　フランスで、全日本の先輩の西君の訃報に接し、動転しました。最後のゲームが終って、パリ郊外のシャトルの街の大きな教会で、皆んなでご冥福をお祈りしました。

　遠征を通して審判の判定基準などについても色々に感じる事がありますが、この件は次号に、男子の世界選手権をご覧になった方々と意見を調整して、報告したいと思います。遠征に際して各方面の皆様に大変お世話になりましたご報告をもってお礼といたします。

コーチ・樫塚正一

　ロス・オリンピックのアジア予選以後、対外的な国際試合を持たず、国内の強化合宿に務めた全日本女子が、12月に開催される世界選手権の出場が決定して3年振りに合宿成果を問うためヨーロッパ遠征を行なった。強化合宿の期間に選手も新旧の交替があって、国際試合をナショナルメンバーとして体験する選手は少ない。1月の選考合宿の後、沖縄で遠征メンバーによる合宿を行ない、チームとしての方針から目標目的の具体的な指示を受けチーム作りに汗を流した。課題に対する練習などを終え、練習の内容が東欧諸国のチームにどれだけ通用するかの期待と不安の中、ユーゴ、東ドイツ、フランスをまわって体験した現状は次の通りである。

　今回の遠征で特に印象に深く残るのは、東ドイツのニューブラデンブルグ大会であり、ソ連、東ドイツ、ユーゴ、ハンガリー、ブルガリア、オーストリアの各ナショナルチームの対戦で全日本の女子にとっては意義ある大会であった。大会では多くの課題をもっている。全日本女子防御の位置、攻撃展開の速さ、流れに対する読み、洞察力など多くの興味ある課題を我々に教えてくれた。アジア予選以後、大きいハンドボールの変化とは防御ラインの高さであり、フリースローラインが防御を行なうラインに変わったといって過言ではないくらい、防御ラインは高く早い位置取りを知らなければならなかった。高く取る防御ラインに戸惑いながらも、小池、山岸、野嶋などのアタッカーがミドル・シュートによって得点することに成功出来たことは収穫であり、我々スタッフには明るい希望を見た。しかし速い攻撃の展開が出来ると考えていた速攻が、パスのつなぎすぎで帰陣の早い防御の壁に合い、考えていたよりも成功に結びつかず、逆にヨーロッパ諸国の長いパスを中心に短いパスの組み合せを上手に使う速攻で得点を加えられたことは反省課題として残る。

　ハードな連戦が続く中で、各国ナショナルチーム全てに20点を越す得点が取れたことも、今後のチームを形成する中に大切な意味をもって考えたい。防御ラインが低く大きい選手に対する体力的な消耗とミドル・シュートの位置、ポストプレーに戸惑いを見せながらも、試合を重ねるにしたがってヨーロッパの選手と同じ高さの位置を取ることが出来、ニューブランデンブルグ大会に於いては、高いラインの防御が出来るようになったことも貴重な体験いえよう。

　フランスでは、ハードなスケジュールから来る疲労で、気力だけで戦う遠征ではあったが、ミドル

シュートの得点、防御ラインの位置取り、速攻展開の確認などの課題と収穫したもの、さらに強豪と対戦した中で試合の流れに対する判断、読み、洞察力を身につけることを体験したことは、今後の練習方法、種目の選択を行なうためにチームに取って重要な意味をもつもので、次回の遠征に対する練習や合宿を行なう目標を定めるにも大きい収穫を得ることが出来たと考えております。

前田重子

自分がキャプテンとして、初めての海外遠征でしたが、まだまだ自分が勉強不足のために監督、コーチを始めみんなの足を引っ張ってしまった事を申し訳なく思っています。もう少しで勝てる試合を落としてしまったのは、そのもう少しという所の精神的な弱さが出てしまったためだと思います。国際試合に慣れていないとか、そういう理由もあると思いますが、土壇場でふんばれる精神的な強さの補助をするのがキャプテンの役目だと思っています。それが今回は出来なかった事を反省しています。

欧州の選手たちは、やはり国際試合に慣れているなあと感じました。どんな所とは具体的にいえませんが、国の代表なんだというプライドのようなものが強く感じられました。特に、ニューブランデンブルグの大会では、技術、精神、全てに素晴らしい試合を観る事ができて大変勉強になりました。

日本のハンドボーラーにも、一人でも多く、一目でも良いから見せてあげたいと思いました。日本でも国際試合がもっと開催できれば良いのですが……。

ユーゴスラビアでは、やはり日本人は珍しいらしく、街を歩いていると道行く人がジッと見ていくので、少し恥ずかしくも思いましたが、中には親しそうに何か話したそうに近づいてくる人をいました。街全体の印象は、やはり華やかというには程遠いのですが、人々の印象は、とても柔らかく感じました。

東ドイツもやはりユーゴと同じで、何となくイメージは暗いのですが、そんな感じはこれっぽっちもありませんでした。

フランスは、私にとって忘れられない場所になりました。空港に着いた荷物の中に、私のスカイケースが見当たらないのです。次の日には見つかって無事に私の手元に返って来ましたが、もうあんな不安になったのは初めてでした。あんな思いは二度としたくありません。もっとも、そう滅多にある事ではないと思いますが。

最後になりましたが、今回の遠征のために動いて下さった協会の方々、その他の方々の御協力に感謝致します。

池上由美

今回の遠征で、東ドイツに入国出来た事はとてもラッキーでした。何度かの海外遠征の中でも東欧ははじめての人が多く、皆それぞれ感概深げだったようです。

ベルリン空港から3時間程バスに揺られニューブランデンブルグという街に着きました。この冬降った雪が一面に残っており、ホテルの前の広場に張った氷の上でスケートを楽しんでいる子供たちの姿が目に映りました。この街には、丁度ホテルを取り囲むように東西南北の方向に4つの城壁の跡があります。ここには沢山のお店が建ち並び、通りはいつも買い物客で溢れていました。驚いた事にはデパートの玄関横に乳母車が一列に並べてあり、お母さんたちが赤ちゃんを人込みに置いて買い物をしている様は私たち日本人には信じられない光景でした。

大会会場は、城壁の門をくぐってバスで3分程の所にありました。この会場は、コートがぎりぎりとれる広さの円錐形で、ゴールの後ろの壁には参加チームの国旗が張られ、階段式の観客席が設けてありました。今年で17回目を迎えた参加チームは、日本の他にソビエト、東ドイツI、II、ユーゴ、ハンガリー、オランダ、ブルガリアといった世界のトップレベルです。大勢の街の人がコートを取り囲み、各国の国歌を聴いて大会が始まりました。試合は8チームがA（ソビエト、ユーゴ、東ドイツII、ブルガリア）とB（東ドイツI、ハンガリー、オランダ、日本）に分かれてそれぞれ予選リーグを行ない、その結果上位4チームと下位4チームの中で順位が決められていきました。東ドイツの試合はいつも会場一杯で、口笛を吹き手を叩き足を鳴らしての大変な盛り上がりで、ソーセージをほおばりながら観客も実にハンドボールを楽しんでいるようでした。滞在中晴れた日が一日もなかったためか、共産国というイメージからか街の印象として少々冷たさを感じたのですが、会場に一歩入ればどこの国も同じ。特に私たちヤーパン（JAPAN）は物珍らしさからか凄い人気でした。各チームに協会の人と通訳の人がつき、ヤーパンには板垣退助が話題に上る程日本語が上手な愛称ベアーさんに色々御世話頂きました。また、この大会の特長として街の会社が各チームのスポンサーとなって援助するシステムとなっており、そして協会から1人50マルク（約6千円）が配られました。

伝統あるこの大会に参加出来、ロス・オリンピックではみられなかった東欧のハンドボールを目の当たりにし、少々興奮気味に、また改めて日本のハンドボールを自

分のプレーを考えさせられた今回の遠征でした。

山口妙美

ニューブランデンブルグ国際トーナメントに参加するため、そこには1週間滞在しました。体育館には、いつもバスで行き、ホテルからは、約10分ぐらいの所にありました。中に入ると少し暗い感じがしました。コートは40、20mがきちんととれてましたが、客席は少なく、客席とコートとの距離が短いので、地元の東ドイツの試合などは、レフェリーの笛が聞きづらく、日本は、アジアからの参加という事もあり、観客も大変応援してくれました。

ホテルは、試合参加チームが全部宿泊でき、1階には食事をする所とレストランがあり、部屋に入ったら少し暗く、外国なので、お風呂には期待してませんでしたけど、そこにはバスもなく、使用する時、まわりをぬらさないように気を付けました。

今回の遠征で、このホテルだけが洗たくロープを部屋にはっていけないといわれ、掃除の人にみつからないように、ユニフォームをほしました。最後の夜には、同じ階のオランダチームと一緒にさわいでとても楽しかったです。食事は、ユーゴから東ドイツに移って初めて"おいしい"と思いました。ポテトは、いつも好評で、一度も残った事はありませんでした。メニューは、ブタ、牛、鳥、魚を、井先生が考えてリクエストされ毎回何が出てくるのか楽しみで、朝もパンとミルクだけでなく、ハム、卵などが必ず出て、食事は大変おいしかったです。

井先生がこのような旅行は、本当に若いうちにするのが一番だと言われてましたが、本当にそのとうりだと思いました。

近藤育子

私にとって、全日本メンバーに入ってから今回が初めてのヨーロッパ遠征であり、また、ユーゴスラビア、東ドイツといった共産国を訪問するのも初めての体験でありました。

両国共、機内から見える景色は白一色で、まるでおとぎの国のようでした。

その雪を手に取って見ると、すごくサラサラしていて、固まりもしなく、日本ではあまり見られない雪をこの手で感じとってきました。それは、ユーゴ国産のクリスタルグラスのように土産として、日本に持ち帰れないのが残念でたまりません。

その雪ですが、普通何日も降り続かないと解けていくのに、ヨーロッパは日本と質が違うのかほとんど解けていかないので、春がいつくるのか心配です。

雨が降り、道路の雪は凍ってすごく危険な状態なのに、誰一人としてタイヤにチェーンをまいて走っていないのにはビックリしました。スリップしている車はよく見ているのですが……。

それに、交通事故が思ったより少ないというのはどうしてなのか、とても疑問に思いました。

一番印象的だったのは、"雪"に関してでしたが、他には、空港などですれ違う人の冷たい目や通勤途中に朝食を済ませる人が多い事や、小学生たちがとても早く(午前6時頃)から学校に通う事や、売店の営業時間が一定とか、食事は必ず毎食肉か魚が出る事などです。

私たちの遠征行動範囲がもっと広ければ、もっとたくさんの問題が起こっていた事と思います。

やはり海外遠征は、日本的感覚で物事を考えたりしてはいけないものだと考えさせられました。

市川千恵

『音のない国』私が生まれて初めて共産圏に足を踏み入れた時の印象でした。

しかし、数日間をミトロビッアで過ごすことによって、最初に受けた印象を少しづつ消すことが出来ました。

ミトロビッアの街は静かで、街の中心地にある史跡は人々の生活に何の違和感もなくたたづんでいました。それでいて何かを語りかけようとしているのです。街の家々には、寒さがとっても厳しいために、堅いレンガ造りの家でした。外ばかりしか見えない毎日だったので、私は自由な時間をつかってミトロビッアの街と話をするために散歩へ出かけました。歩いては立ち止まり、周りの風景に耳を目を傾けてみました。道路は全て並木道で、冷たい空気の中に立体映像のように目の中へとび込んできました。手を伸ばせばふれることができそうな、走っていけば自分が並木道の中へとけてゆきそうな気さえしました。

私たちは、ほんの少しの間周りのものに声をかけられたような気がして、耳を澄ましてみました。木々の枝が風に吹かれてカサカサ音をたてていました。道路を走る車の音が、体にしみてぬけてゆきました。地面に落ちる雨の音が、胸の奥に響いてきました。冷たい空気が私を包みました。

心をあけて、耳を澄ませてみれば、生きている音がどこからともなく聞こえてくる街、ミトロビッアでした。いつも生きていることをみせつけられている私にしてみれば、心を開けて耳を澄ますことを忘れていました。流行歌の聞きすぎで、クラシック音楽の美しさを忘れてしまったようなものでし

た。

ミトロピッアは、クラシック音楽で『音のない国』ではありませんでした。日本という国で育った私には、少しものたりないものもありましたが、心を洗うには最適の場所ではないかと思いました。

時實良枝

「ボルドーにて」

今回の遠征の最終目的地・フランス入りしたのは、後残すところ1週間という追い込みの3月10日でした。パリに着いて前田さんのスカイケースが紛失するというハプニングが起こりました。翌日無事に戻ってきて一安心でした。5時間ぐらいバスに乗って宿舎についで夕食を済ませて寝床についたのは1時をまわっていました。

ボルドーといえば、ワインの名産地でとても有名な所です。そして、前回のジュニア世界選手権で予選リーグの試合会場で、宿舎は、大学の寮みたいな所で、懐かしくもあり、怖くもありました。食堂のおばさんも何人か見覚えのある人もいました。食事の方は、前回は4チームいたせいもあって、その時の方が種類が豊富でした。試合前に市庁舎を訪問しました。中に入って驚きました。普通日本だと、近代的で合理的なビルが多いのに、昔の面影を残していて、部屋の造りもとても綺麗でした。

前回の世界選手権の会場をきっかけに、ナショナルチームに地元の選手2名が選抜されていることもあって、大変ハンドボールが盛んになってきたという事です。観客も日本とは違い大勢入っていて、スゴイ応援でした。日本では味わえない雰囲気でゲーム出来ました。「君が代」が流れたらジュニアの時を思い出したのかよくわかりませんが、胸にジーンときてジュニアの時の屈辱をはらそうと頑張ったのですが、残念ながら引き分けという結果に終ってしまいました。ミスが多かった。

フランスも世界選手権目指し、かなり力を入れてるので、私も負けないよう頑張りたいと思います。フランスのハンドボール協会の人には、大変お世話になり、感謝しております。どうもありがとうございました。

井沢由美子

今回のヨーロッパ遠征で、フランスのジュニアチームと試合をしました。

昨年ソウルで世界ジュニア選手権に出てフランスのジュニアチームと戦ったのですが、ソウルで戦った時のメンバーは、何人かナショナルの方にいましたが、ほとんど新メンバーになっていました。ソウルで試合した時の自分と今回試合した時の自分は、何かひとまわりちがっていて、余裕がありました。ソウルでは、大きな大会だったし、自分の立場が一番上という事もあり、勝たなければいけないという気持ちばかりで余裕がなかったのですが、今回は下の立場であり、出るなら思いっきりプレーしようと思ったからだと思います。

フランスのジュニアチームとはいえ一人一人いいプレーをしてたと思います。ロングシュートも打てば、サイド、ポストもあり、気を抜いていたら必ずやられてしまう感じでした。特に、サイドでの一対一でシュートに行かれるのが多かったです。

背の高さや、体格を比べると、一対一の守り、早い動きからの攻撃をしなければと思いました。

今回の遠征は、全日本に入って初めての遠征で、不安あり緊張ありで終ってしまった感じですが、いろいろな場面で勉強できたと思います。特に、ニューブランデンブルグ国際トーナメントの大会でのソ連と東ドイツの試合はものすごいものでした。これがハンドボールなんだと思う程すごい試合で、私は感動しました。ソ連と東ドイツの試合だけではありません。この大会のすべてが、ドラマを見ているようなすごさがありました。

この遠征では見る勉強が多かったのですが、今後は試合に出て勉強できるように頑張りたいと思います。

小池宏子

前日のダブルヘッダーで、ソンボル86の大会も終わり、今回の遠征のメインイベントであるニューブランデンブルグへ向けて、3日出発しました。

悪天候の中、小さな飛行機に揺られ、気分を悪くした者も多かったようだ。飛行機のあとのホテルへ向うバスでの道のりは、疲れと酔いとで、地獄のような2時間だった。もどし過ぎで喉は痛むし、胃も痛むという体調のまま、大会初日、食欲のない朝を迎えた。4時30分から開会式で7時からはゲームだというのに……という不安と、どうにもならない気だるさにつつまれた朝だった。

大会はAとBのブロックに分かれ、日本はBブロックで、初戦はハンガリーとのゲームでした。大きなポストにひたすら悩まされ続けた。一人では絶対に守れない。二人でもやっとである。だいたいポストへのパスが通ったら、もう負けということをまざまざと見せつけられた。相手のDFは大きいのだが、前には出てこないので、うまく走り込んで行けが充分に上からも打てる。下手に細工するよりも、only power で行った方が通用する面が多かった。

あの移動日から、食事をしてももどしてしまうという体調のまま2年目を迎えた。数少ない勝つチャンスのあるチーム、オランダとのゲームである。相手の2—4のDFに対して、マークを外して中に入って行く事ができなかった。前年の最後のチャンスをだめにして、相手に得点されるというのが、今大会多かったが、同点になる所が2点差になってしまう。これも大きな問題点だと思う。

3日目、東独とのゲームは、エマさんと私がメンバーから外れて、ガンさん、ユミ、ミチなどを除いた若手メンバーでのスタート。あまり出てこない時には上からのシュートがあり、サイドやポストもそれにからんでシュートがある。シュート率のいい、とてもいいゲームだったと思います。

初戦は自分たちのつまらないミスから相手の単独速攻という形が21—37という点差になり、2戦目は、大事な所でのシュートミスが多く21—22でゲームを落とした。数少ないチャンスを生かさなければならない日本チームにとってつまらないミスは、本当に減らして行かなければならないと痛感させられた。

また、小さい私たちが下がっていては絶対に守れないのが現状のように思いました。外国チームのポストへのパスは=得点という形なので、どの様なDFにして行くかが今後の課題のように思います。

野嶋ちえみ

2月25日、遠征初の訪問国ユーゴスラビアに到着。自分自身にとりこの地は二つのある意味を持ち臨んだ国でした。

その一つとは、同じチームメイトとして生活したカーヤさん、ビーバさん、ミラーさんとの再会でした。入国3日目にして、やっとビーバさん、ミラーさんに会う事が出来たのですが、かたことの日本語がすごく懐かしく思えました。ビーバさんは、日本滞在中『ユーゴ・帰る・ハンドボール・フィニット』といってこられたのですが、バリバリにナショナルでプレーしておられ、声を一番出してられたのが印象的でした。おもわず『ビーバさん、ハイッ、こっち』と叫びそうになった事もありました。ミラーさんも、ハンドボールは退いてられましたが、ハンドボール熱は以前とかわらず、日本チームを観客席でたたいて応援してられました。

そして、もう一つの意味とは、ロサンゼルス金メダリストのユーゴナショナルとの対戦です。日本のプレーがどのくらいこのチームに通用するかなどを考え、皆チャレンジ精神で臨みました。結果の方は33―27と敗退はしましたが、金メダリストチームに、ロング、速攻、ポストなどで得点27点を取れた事は、一つの大きな収穫になったと思います。ユーゴナショナルのキャプテン・S・ダシッチの全てのプレー、そしてビーバさんのロング、各選手の粘りあるプレーはとても参考になりました。

また、ユーゴ最後の町ソンボルでカーヤさんにも会う事が出来ました。観客席から『井さん、元気。皆元気』といわれスタッフ、選手、皆、ビックリしたものです。また、場内放送で『カーヤがスタンドに来ている』と流れたらしく、つくづくカーヤさんの偉大さを知りました。少し太ってられましたが、中学の教師をやる傍ら、ハンドボールもたまにやってこられるそうで、とても元気にしてました。

ユーゴでの滞在は6日間でしたが、この国は私たちにとり、一段と思い出の深い国になりました。

下條千恵子

ニューブランデンブルグでの大会では、各国毎にスポンサーがつくという珍らしい大会であり、タイヤ工場が、私たち日本チームのスポンサーとなって下さいました。その工場を大会期間中の半日を利用して見学させて頂ました。初めてのタイヤ工場で、見る機会一つ一つが珍しく、また、タイヤ一つを作るにも、大変な作業を経て車に取り付けられるまでになるのだと、タイヤ一つにも興味深くなりました。見学した後には、料理の大会で何度も賞を取られたという優秀なシェフの作られたおいしい料理を御馳走になりました。

大会終了日の夜には、打ち上げパーティが催されました。そのパーティでは、楽しい会食や、今まで競って来たチームが一つとなってのディスコ大会がありました。皆言葉が通じないながらも色々なチームの人たちと一緒に踊って騒いで汗を流し、今まで敵同士で戦って、あの熱戦を繰り広げた後とは思えない程楽しい、そして思い出深いパーティとなりました。

山岸和子

自分がアタッカーとしての立場から見て、東独のディフェンスは、考えていたより攻撃しやすかったです。高い攻撃に対しては、早いつめとマンツー的なディフェンスなのですが、日本のように身長の低い攻撃に対してはあまり前につめて来ませんでした。だから、普通に打ったシュートは、カットされゴールまでも行きましたが、クィックシュート、ステップシュート、ブラインドシュートなどは得点できました。しかし、東独のディフェンスは、攻撃者に対しての位置取りが早いので小さなフェイントは通用しませんでした。

自分たちは、早いクロスでディフェンスをずらし、クィックシュートやカットインプレーをしました。意外にポスト同士のクロスなんかも使えました。

東独のディフェンスは、5・1ディフェンスを得意とするチームでした。実際、ソ連やオランダ戦の時は、このディフェンスは、良かったと思います。前に出ている5人は、ほとんどマンツーマンぎみに守っていたので、まずロングシュートは少なかったです。だからポスト・サイドカットインが増えました。でもフォローが早いので、チャージをとられ、逆速攻ということも少なくありませんでした。

速攻中心としている日本は、高い攻撃をいかに破るかが毎回守る時の目標となっています。左右クロスや強引なポストプレーに、自分たちは守り切ることが出来ませんでした。

私たちも、5・1ディフェンスを立てました。そうすると、ロングは何とか打たれる本数は少なくなりました。が、ポストプレーは生きます。ディフェンスをもっと理解していれば、もう少し守れることが出来たかと思います。

東独のディフェンスを破るには、早い攻撃で、クロスやブロックを使っていけば、わりと通用したかと思います。攻撃を守るには、早いつめと、マンツーマンをしっかり守ることをすれば速攻につなげるかと思いました。

ハンドボールプレーヤーの体力に関する横断的研究 —12～23歳—

日本ハンドボール協会
トレーニングドクター群

阿部徳之助　宇津野年一　新井節男　森田俊介　山崎　武　小山啓央　水上　一　竹内正雄　早川清孝　土井秀和　福井孝明　栗岩淳一　宮澤恒夫

(2) 第2段階テスト

図2－1および2－2、図2－3は、男女の第2段階テストの結果である。

ボール置き換え前後シャトルランについてみると、男子は12歳から19歳まで急激に時間の短縮がみられるが、20歳から22歳までは時間の増加傾向にある。女子は加齢とともに時間が短縮されているのがみられた。

時間往復走についてみると、男女とも12歳から23歳まで年齢によって波動的に変化がみられるが、全体的に加齢とともに距離が伸びているのがみられる。

立ち5段とびについてみると、男女とも加齢とともに増加しているのがみられる。

サイドスライドステップについてみると、男女とも12歳から23歳まで波動的に増加しているのがみられる。

ジグザグドリブルについてみると、男女とも加齢とともに時間が短縮されている。男女の差はみられなかった。

腕立拍手についてみると、12歳男女10・5回、3・5回から23歳男女28・8回、20・9回と年齢によって波動的ではあるが、明らかに男女とも増加しているのがみられた。

ハンドボール遠投についてみると、方法は第1段階テストと同じ方法であるが、一般・高校男子は3号球、女子と少年は2号球を用いて実施しているところから、男女を比較することはできないが、男女とも加齢にともなって高い値を示した。

[考　察]

第2段階テストでは、ハンドボール競技特性にみあったテスト項目7つを選びだして、より高度な技術を習得するための基盤となる専門的体力づくりの目標レベルを示したものであり、全ての項目については他競技と比較することはできないが、ハンドボール遠投は文部省報告[2]と比べてみると、男子12歳は文部省報告とハンドボールプレーヤーとの間に差はみられない。これはハンドボール経験が浅いことによるものと思われるが、13歳以降は明らかにハンドボールプレーヤーの方が高いことが認められる。この傾向は、女子についてもいえることである。ジグザグドリブルは、男女とも加齢にともなって時間の短縮がみられるが、性差はみられなかった。今後の検

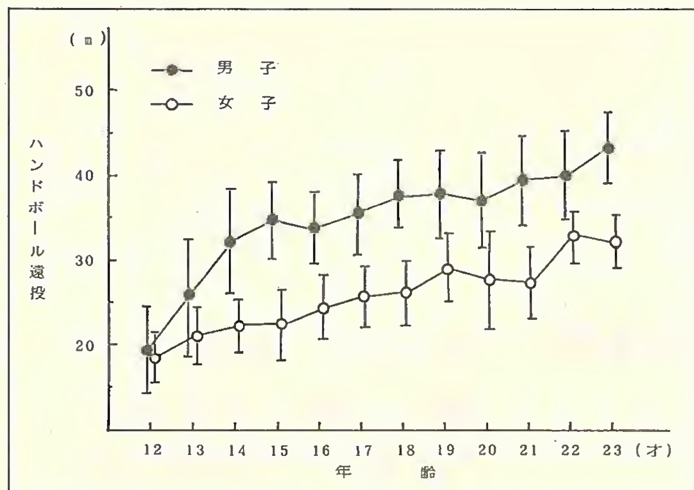


図2－3　ハンドボール遠投の年齢別推移

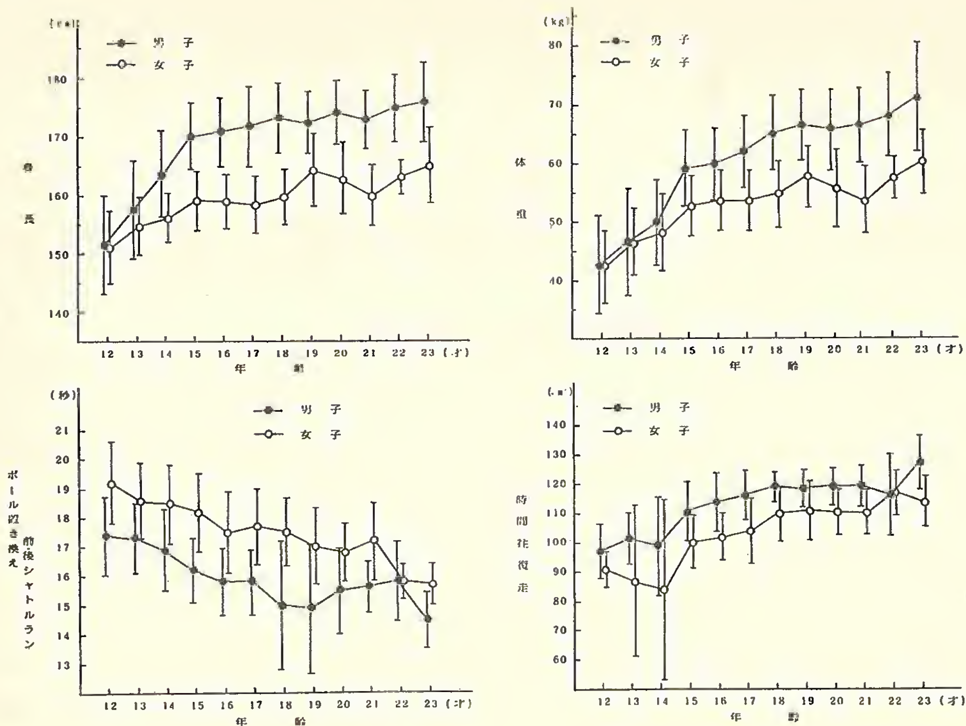


図２-１　身長、体重、ボールの置き換え前・後、シャトルラン、時間往復走の年齢別推移

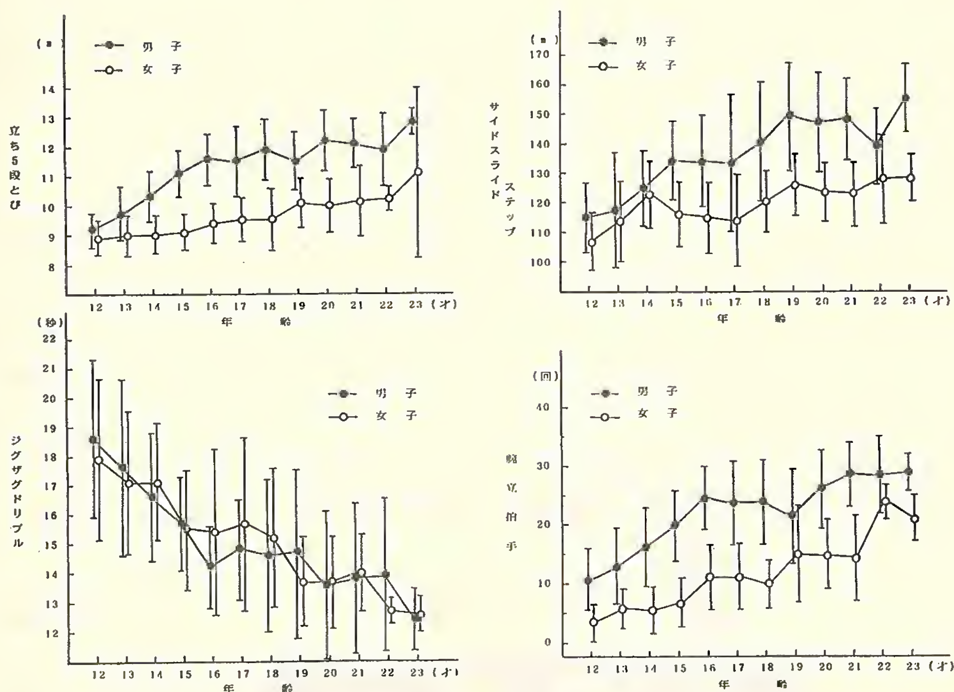


図２-２　立ち５段とび、サイドスライドステップ、ジグザグドリブル、腕立拍手の年齢別推移

討項目と思われる。

ハンドボール競技は、近年、プレー中の身体接触を厳しく制限してきているが、競技の特性も考慮して未だ完全には制限されていない。日本チームが諸外国の大型選手と対等に競技するためには、日本チームの大型化をめざすのは当然ながら、さらに、多少の身体接触においても意図したプレーを行なうことのできる強いパワーや筋力が必要である。このことから阿部ら[6]は上肢および体幹筋群の運動能力を単独に判定できる項目として「手たたき伏臥腕屈伸」（本研究では腕立拍手と呼称した）に関する試験的研究を行ない、背筋力とこの腕立拍手との間に高い相関にあることを報告している。この項目は、今回初めて実施することからどの位の値が必要であるかどうかは判断できないが、男女とも加齢にともなって向上しているのが認められる。

(3) 第3段階テスト

図3—1および図3—2、3—3は、男女の第3段階テストの結果である。この第3段階テストは、わが国のトッププレイヤーが保持しなければならない体力内容のチェックとハンドボール競技特性を示す項目となっている。

12分間走についてみると、12歳男女2623・3m、2315・4mで男子の方が女子より30

表 2—1　男子第2段階テスト測定結果

項目 ＼ 年齢（人数）		12 (22)	13 (50)	14 (56)	15 (81)	16 (86)	17 (79)	18 (38)	19 (27)	20 (24)	21 (22)	22 (13)	23 (12)
身長 (cm)	M	151.5	157.7	163.6	170.1	170.8	171.8	173.4	172.3	174.1	172.8	174.9	175.7
	S.D	8.60	8.53	7.31	5.65	5.84	6.90	6.02	5.40	5.50	5.02	5.54	6.89
体重 (kg)	M	42.6	46.6	49.9	59.3	60.0	62.2	65.1	66.5	65.8	66.5	68.2	71.2
	S.D	8.51	9.21	7.38	6.69	6.12	6.39	6.49	6.04	6.94	6.32	7.15	9.48
ボール置換え前後シャトルラン (秒)	M	17.4	17.3	16.9	16.2	15.8	15.8	15.0	14.9	15.5	15.6	15.8	14.5
	S.D	1.36	1.24	1.40	1.13	1.13	1.10	2.20	2.02	1.47	0.85	1.36	0.99
時間往復走 (m)	M	107.04	111.92	109.57	120.97	124.33	126.33	129.4	128.8	129.22	129.68	126.00	137.33
	S.D	9.03	9.03	17.44	10.25	10.14	8.15	5.03	6.70	6.80	7.13	14.32	9.37
立ち5段とび (m)	M	9.20	9.77	10.36	11.17	11.61	11.53	11.91	11.59	12.22	12.10	11.99	12.89
	S.D	0.57	0.94	0.86	0.81	0.85	1.22	1.05	1.00	1.09	0.84	1.26	0.44
サイドスライドステップ (m)	M	115.23	117.5	125.26	134.57	134.2	133.14	140.74	149.30	147.15	148.23	139.08	155.17
	S.D	12.12	19.98	13.44	13.35	15.58	23.04	20.29	18.57	17.24	14.19	13.49	12.26
ジグザグドリブル (秒)	M	18.6	17.6	16.6	15.7	14.2	14.8	14.6	14.7	13.6	13.8	13.9	12.4
	S.D	2.73	3.07	2.20	1.64	1.41	1.72	2.61	2.92	2.55	2.59	2.66	1.09
腕立拍手 (回)	M	10.5	12.9	16.4	19.7	24.5	23.5	23.17	21.4	26.1	28.5	25.9	28.8
	S.D	5.39	6.84	6.94	6.11	5.51	7.85	7.31	8.39	6.79	5.52	6.92	3.46
ハンドボール遠投 (m)	M	19.46	25.76	32.49	34.80	33.8	35.5	37.6	37.9	37.1	39.5	40.0	43.4
	S.D	5.14	6.89	6.20	4.64	4.41	4.92	4.24	5.20	5.52	5.44	5.21	4.10

7・9ｍ高い値を示した。男女とも22歳をピークに波動的に距離の増加がみられた。

バービー・フットワークについてみると、男女とも加齢とともに時間の短縮がみられた。

助走つき垂直とびについてみると、12歳男女は58・6ｍ、40・6ｍを示し、18㎝の差であった。男女とも17歳まで増加がみられるが、18歳以後は両者とも一定状態で増加はみられなかった。

20ｍ往復ジャンプについてみると、12歳男女18・2秒、17・4秒で女子の方が高い値を示し、13歳以降男子の方が女子より高かった。女子をみると15歳まで時間の短縮がみられ、その後は19歳を除き大きな変化はみられなかった。

33ｍスローのベストタイム、平均タイム、ゴールイン数についてみると、男女ともベストタイムと平均タイムは12歳から23歳まで平行して短縮しているのがみられ、ゴールイン数は12歳男子2・1、女子1・2を示した。23歳まで男女とも増加がみられ、男子3・5、女子3・3であった。

〔考察〕

第3段階テスト作成の目的は、第1、第2段階テストを終了し、その成績を知った人を対象に、少ないテスト項目でもって現在の個人の基礎体力を判定しようとするもので、わが国のトップブレー

表 2－2　女子第2段階テスト測定結果

項目 ＼ 年齢（人数）		12 (41)	13 (53)	14 (51)	15 (76)	16 (115)	17 (71)	18 (35)	19 (21)	20 (26)	21 (16)	22 (12)	23 (18)
身長 (cm)	M	151.2	154.7	156.2	159.3	159.0	158.5	159.7	164.4	162.7	159.8	163.2	164.8
	S.D	6.30	5.00	4.39	5.07	4.78	5.38	4.97	6.35	6.42	5.43	3.07	6.99
体重 (kg)	M	42.4	46.7	48.3	52.8	53.6	53.6	54.7	57.9	55.7	53.5	57.7	60.4
	S.D	6.21	5.80	6.57	5.12	5.12	4.48	5.86	5.02	6.54	5.63	3.79	5.42
ボール置換え	M	19.2	18.6	18.5	18.2	17.5	17.7	17.5	17.0	16.8	17.2	15.8	15.7
前後シャトルラン (秒)	S.D	1.41	1.31	1.37	1.39	1.44	1.34	1.16	1.33	1.02	1.29	0.62	0.72
時間往復走 (m)	M	101.37	97.62	94.08	110.98	112.93	114.96	120.46	121.23	120.42	120.56	127.79	123.58
	S.D	6.61	26.15	31.24	9.20	8.48	11.53	9.91	10.11	8.11	8.07	8.02	9.45
立ち5段とび (m)	M	8.96	9.03	9.07	9.16	9.46	9.53	9.58	10.10	10.03	10.15	10.45	11.11
	S.D	0.63	0.74	0.69	0.61	0.67	0.75	1.07	0.87	0.90	1.26	0.37	2.93
サイドスライドステップ (m)	M	107.29	114.40	123.27	116.24	115.41	114.03	120.70	126.59	123.79	123.37	128.21	128.17
	S.D	10.12	13.87	11.79	11.26	12.20	15.86	10.89	10.64	10.37	11.37	15.41	8.19
ジグザグドリブル (秒)	M	17.9	17.1	17.1	15.5	15.4	15.7	15.2	13.7	13.7	14.0	12.7	12.6
	S.D	2.75	2.47	2.02	2.08	2.87	2.95	2.43	1.54	1.74	1.30	0.45	0.64
腕立拍手 (回)	M	3.5	5.8	5.5	6.8	11.1	11.0	9.9	15.0	15.0	14.2	23.8	20.9
	S.D	3.61	3.81	4.24	4.28	5.51	5.60	4.62	8.89	5.94	7.94	3.40	4.38
ハンドボール遠投 (m)	M	18.7	21.4	22.4	22.5	24.6	25.9	26.3	29.3	27.9	27.5	32.9	32.4
	S.D	3.08	3.47	3.11	4.29	4.00	3.86	4.28	4.31	5.55	4.18	3.08	3.36

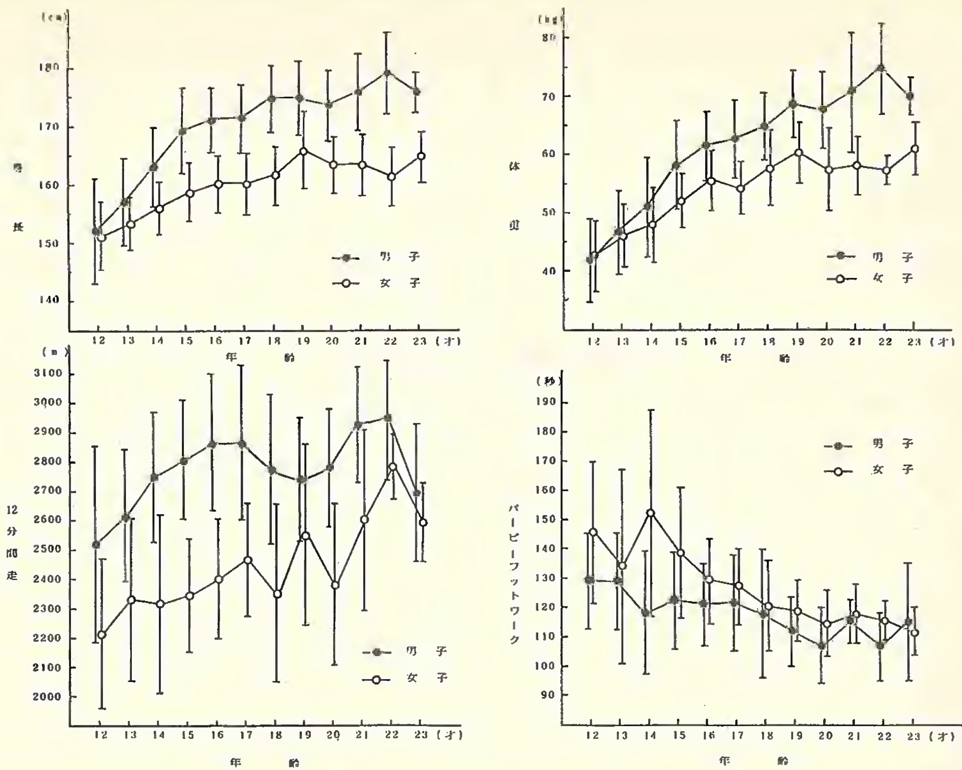


図3-1　身長、体重、12分間走、バービーフットワークの年齢別推移

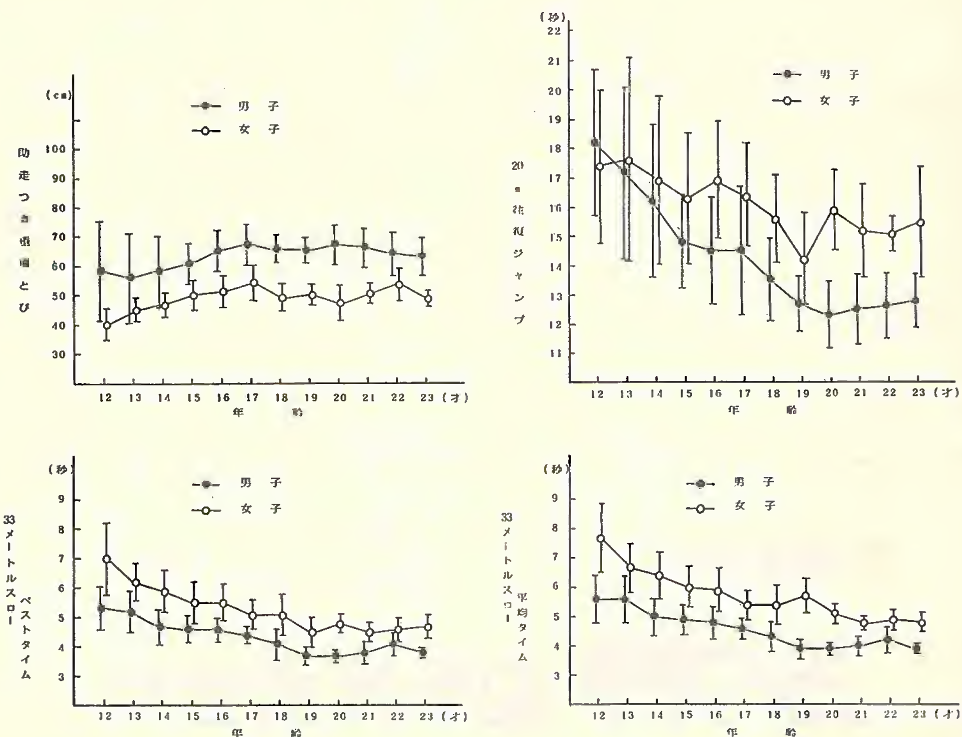


図3-2　助走つき垂直とび、20m往復ジャンプ、33mスローベストタイム、33mスロー平均タイムの年齢別推移

ヤーが保持しなければならない体力内容のチェックを可能にするためにつくられたものである。当然ながら、ハンドボール競技特性に最も近い項目を上げており、12分間走を除いては他競技選手との比較はできない。12分間走は、循環系の強さをみる指標として一般的に行なわれているものである。

浅見ら[5]は、サッカー選手について中学1年から高校3年までとアジアユース大会候補選手の体力について報告している。それによると、中学1年生は12分間に2641m、高校3年生3057m、ユース候補選手3116mであり、ハンドボールプレーヤーの同年齢では2623m、2966m、20歳2884mを示し、中学1年ではハンドボールプレーヤーの方が17・7m少なく、高校90・7m、ユース候補手（20歳）とでは、492・7mハンドボールプレーヤーの方が低い値であった。サッカーはハンドボールコートよりも広く、また、競技時間も長いことから、ハンドボールプレーヤーよりもサッカー選手の方が高い値を

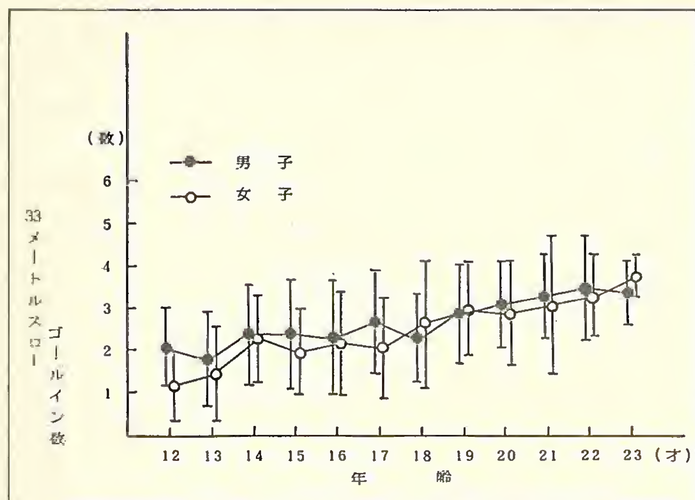


図3－3　33mスロー・ゴールイン数の年齢別推移

表　3－1　男子第3段階テスト測定結果

年齢（人数）／項目			12 (27)	13 (93)	14 (69)	15 (83)	16 (90)	17 (69)	18 (18)	19 (19)	20 (11)	21 (11)	22 (11)	23 (10)
身長 (cm)		M	152.2	157.1	163.1	169.3	171.0	171.3	174.6	174.7	173.5	175.8	179.2	175.8
		S.D	9.17	7.80	7.21	7.46	5.60	5.92	5.76	6.35	6.22	6.76	7.08	3.05
体重 (kg)		M	41.9	46.6	51.0	58.3	61.5	62.5	64.8	68.5	67.5	70.6	74.5	69.8
		S.D	7.93	7.30	8.52	7.77	6.39	6.93	6.35	5.76	6.50	10.45	7.98	3.46
12分間走 (m)		M	2623.3	2718.4	2851.6	2903.92	2962.11	2966.30	2873.06	2844.7	2883.64	3025.45	3045.91	2797.50
		S.D	333.92	234.18	223.94	209.70	239.01	265.41	255.64	211.93	201.66	201.06	205.95	235.55
バービーフットワーク (秒)		M	129.9	129.2	118.7	122.6	121.0	121.6	117.5	112.3	106.9	115.0	106.7	115.3
		S.D	16.35	16.99	21.13	16.99	14.5	16.56	22.43	11.60	13.04	7.85	21.92	20.01
助走つき垂直とび (cm)		M	58.6	56.4	58.6	61.1	65.4	67.5	66.2	65.5	67.4	66.9	64.8	63.9
		S.D	17.74	15.75	12.44	7.31	7.55	7.32	5.22	4.94	7.20	6.93	7.64	6.82
20m往復ジャンプ (m)		M	18.2	17.2	16.2	14.8	14.5	14.5	13.5	12.7	12.3	12.5	12.6	12.8
		S.D	2.55	3.08	2.67	1.67	1.98	2.22	1.49	0.96	1.19	1.22	1.14	0.94
33mスロー	ベストタイム (秒)	M	5.3	5.2	4.7	4.6	4.6	4.4	4.1	3.7	3.7	3.8	4.1	3.8
		S.D	0.77	0.74	0.61	0.49	0.43	0.36	0.58	0.34	0.23	0.38	0.45	0.13
	平均タイム (秒)	M	5.6	5.6	5.0	4.9	4.8	4.6	4.3	3.9	3.9	4.0	4.2	3.9
		S.D	0.87	0.82	0.66	0.53	0.51	0.39	0.58	0.35	0.21	0.36	0.46	0.12
	ゴールイン数 (数)	M	2.1	1.8	2.4	2.4	2.3	2.7	2.3	2.9	3.1	3.3	3.5	3.4
		S.D	0.99	1.11	1.2	1.31	1.36	1.28	1.08	1.15	1.04	1.01	1.29	0.84

表 3－2　女子第3段階テスト測定結果

項目 ＼ 年齢（人数）			12 (50)	13 (57)	14 (51)	15 (69)	16 (75)	17 (57)	18 (27)	19 (22)	20 (7)	21 (9)	22 (8)	23 (4)
身長 (cm)		M	151.1	153.9	156.1	158.8	160.4	160.3	161.9	165.9	163.5	163.7	161.5	165.0
		S.D	6.02	4.61	4.55	5.13	5.31	5.44	5.09	6.70	5.24	5.29	5.10	4.97
体重 (kg)		M	42.8	46.3	48.1	52.1	55.8	54.3	57.8	60.3	57.4	58.1	57.4	61.0
		S.D.	6.31	5.69	6.60	4.86	5.33	4.81	6.66	5.39	7.03	5.18	2.62	4.89
12分間走 (m)		M	2315.38	2436.39	2420.88	2446.16	2506.13	2570.00	2457.74	2654.18	2486.25	2707.00	2889.13	2695.00
		S.D	261.37	281.41	305.17	197.94	209.95	199.22	307.99	313.14	280.06	313.97	113.38	136.99
バービーフットワーク (秒)		M	146.2	134.37	152.5	139.2	129.8	127.9	120.5	119.3	114.5	117.5	115.5	111.8
		S.D	24.56	33.22	35.48	22.88	14.76	13.18	15.78	10.74	11.17	10.91	6.7	8.81
助走つき垂直とび (cm)		M	40.6	45.9	47.7	50.5	51.6	54.6	49.6	50.5	47.5	51.2	54.0	49.3
		S.D	5.86	4.43	4.79	5.45	5.98	6.09	4.60	3.94	0.19	3.77	5.5	2.99
20m往復ジャンプ (m)		M	17.4	17.6	16.9	16.3	16.9	16.4	15.6	14.2	15.9	15.2	15.1	15.5
		S.D	2.65	3.54	2.91	2.28	2.06	1.87	1.53	1.68	1.42	1.66	0.60	1.94
33mスロー	ベストタイム (秒)	M	7.0	6.2	5.9	5.5	5.5	5.1	5.1	4.5	4.8	4.5	4.6	4.7
		S.D	1.25	0.67	0.71	0.74	0.69	0.53	0.72	0.53	0.31	0.32	0.40	0.42
	平均タイム (秒)	M	7.7	6.7	6.4	6.0	5.9	5.4	5.4	4.7	5.1	4.8	4.9	4.8
		S.D	1.20	0.86	0.82	0.73	0.79	0.54	0.70	0.60	0.39	0.28	0.39	0.34
	ゴールイン数 (数)	M	1.2	1.5	2.3	2.0	2.2	2.1	2.7	3.0	2.9	3.1	3.3	3.8
		S.D	0.87	1.17	1.13	1.09	1.26	1.23	1.58	1.13	1.25	1.69	1.04	0.50

示すものと思われる。

12分間走以外の項目は、更に資料を重ね検討をしていく必要があろうと考えられる。

まとめ

昭和60年3月に、日本ハンドボール協会ではハンドボールプレーヤーの能力調査や体力開発向上の促進を目的として、「ハンドボール競技適性診断の手引き」を示した。今回はその手引き書に基づいて全国ハンドボールプレーヤーにお願いして、第1段階から第3段階まで男女総数3915名に協力して頂いた。この資料は、ハンドボール競技者の今後の発展のための基礎資料にしたいと思っている。協力された選手および関係者に心より感謝する。

謝辞

本研究は、日本体育協会医・科学調査研究事業「競技種目別競技力向上に関する研究」の研究費国庫の補助を受けて行なわれた。厚く御礼申し上げます。本研究は、全国の多数のハンドボール関係者および手のみなさんの御協力を受けたことに対し記して感謝したい。

参考文献

(1) ハンドボール競技適性診断の手引き、日本ハンドボール協会、1985年3月。

(2) 昭和59年度体力・運動能力調査報告書、文部省体育局、1985年9月。

(3) 阿部徳之介他：ハンドボール歴代オリンピック選手および昭和59年度日本代表選手の体力について、昭和59年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、23～26、1985。

(4) 石井喜八：ハンドボールの競技適性、体育の科学、VOL・28、795～800、1978。

(5) 浅見俊雄他：スポーツの科学的研究レビューシリーズ・サッカー、新体育社、1981。

(6) 阿部徳之介他：「手たたき伏臥腕屈伸」に関する試験的研究、昭和59年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、27～29、1985。

各地の記録から・・・

第26回群馬県総合選手権

（1月12、15日／前橋市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
桐生工 26－21 下仁田高OB
前橋工ク 19－17 前橋高
桐生ク 21－20 前橋ク

▼2回戦
群馬教員 29－11 桐生工
前商高OB 33－17 群馬教員2
前橋市役所 25－22 吉井高
前橋工ク 不戦勝 富岡愛球会
富岡高 29－9 群馬大
富岡ク 30－26 吉井OB
藤岡ク 24－19 下仁田高
富岡高OB 31－10 桐生ク

▼3回戦
群馬教員 36－13 前橋商OB
前橋市役所 29－18 前橋工ク
富岡高 31－20 富岡ク
富岡高OB 36－20 藤岡ク

▼準決勝
群馬教員 25－14 前橋市役所
富岡高 43－22 富岡高OB

▼決勝
群馬教員 29（12－9、17－12）21 富岡高

※群馬教員は3年連続10回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
下仁田高 27－7 前橋ク

▼2回戦
高崎スカイライン 27－16 高崎市女高
群女短大附高 25－8 下仁田高OG
吉井高 14－10 群女短大附高OG
吉井高OG 23－16 下仁田高

▼準決勝
高崎スカイライン 18－13 群女短大附高
吉井高OG 14－12 吉井高

▼決勝
高崎スカイライン 18（10－6、8－11）17 吉井高OG

※高崎スカイラインは2年連続3回目の優勝。

福井県後期選手権

（1月15、26日／北電体育館他）

〈一般男子〉

▼1回戦
福井ク 32－16 藤島ク
高志OB 17－13 勝山闘球会
バーリング 25－22 レッドボンバーズ

▼2回戦
福井教員 34－8 福井ク
光陽会 24－17 高志OB
若狭愛球会 37－21 バーリング
北陸電力 36－18 羽球会

▼準決勝
福井教員 25－19 光陽会
北陸電力 25－17 若狭愛球会

▼決勝
福井教員 22（11－7、11－12）19 北陸電力

〈一般女子〉

▼1回戦
武生商高 16－10 羽水高A
仁愛高B 26－5 北陸高
仁愛高A 31－2 福井女高
ママさんク 15－11 羽水高B

▼2回戦
全福井 26－15 武生商高
光陽会 12－10 仁愛高B
仁愛高A 26－3 KIDS
福井商高 28－7 ママさんク

▼準決勝
全福井 21－11 光陽会
福井商高 18－5 仁愛高A

▼決勝
福井商高 19（8－9、11－8）17 全福井

〈高校男子〉

▼1回戦
北陸 33－0 科技
羽水 19－17 高志B
藤島 12－0 金津
高志A 11－6 武生

▼準決勝
北陸 44－6 羽水
高志A 22－15 藤島

▼決勝
北陸 24（11－8、13－9）17 高志A

第20回佐賀県室内総合選手権

（1月19日／嬉野商高）

〈高校男子〉

▼1回戦
佐賀西 7－5 佐賀東
神埼農B 8－7 佐賀農

▼準決勝
神埼農A 16－8 佐賀西
神埼 10－8 神埼農B

▼決勝
神埼農A 15（5－4、10－3）7 神埼

〈女子〉

▼1回戦
嬉野商 12－0 東松浦
佐賀東 9－6 神埼
佐賀女 9－7 神埼農B

▼準決勝
神埼農A 19－2 嬉野商
佐賀女 17－3 佐賀東

▼決勝
神埼農A 21（12－1、9－2）3 佐賀女

香川県中学1年生大会

（1月19日／光洋中）

〈男子〉

▼1回戦
香川一 不戦勝 玉藻
桜町 9－8 光洋

▼2回戦
香川一 12－8 城内
山田 9－7 勝賀
紫雲 8－7 香東
古高松 10－6 桜町

▼準決勝
香川一 14－3 山田
古高松 7－6 紫雲

▼決勝
香川一 15（5－2、10－1）3 古高松

〈女子〉

▼1回戦
香東 16－4 太田
山田 13－0 光洋

▼2回戦
塩江 10－2 香東
紫雲 18－1 古高松
香川一 16－3 玉藻
山田 4－1 桜町

▼準決勝
塩江 12－10 紫雲
山田 5－5 3PTC1 香川一

▼決勝
山田 5（2－2、3－1）3 塩江

第26回山口県総合選手権

（1月26日／県スポーツ文化センター）

▼1回戦
徳山ク 28－26 海上自衛隊小月
興亜石油 28－23 豆子郎ク
下松ク 27－23 三井石油
山口県教員団B 26－20 徳山曹達

▼2回戦
山口大 36－9 徳山ク
山口県教員団A 36－18 興亜石油
下関ク 34－14 下松ク
徳山大 31－26 山口県教員団B

▼準決勝
山口県教員団A 21（9－7、12－8）15 山口大
下関ク 30（15－11、15－10）21 徳山大

▼決勝
山口県教員団A 26（12－7、14－12）19 下関ク

静岡県高校新人大会

（1月25、26、2月2日／清水市営体育館、清水市商体育館）

〈男子〉

▼1回戦
浜松南 35－8 吉原商
静岡農 32－14 土肥
静岡工 15－8 天竜林
伊豆中央 13－9 清水東
静岡西 22－16 沼津工
気賀 20－9 修善寺工
沼津東 20－15 二俣

▼2回戦
静岡東 22－16 浜松南
富士 19－15 静岡工

静岡農 22－14 御殿場
浜松湖東 27－9 静清工
伊豆中央 22－13 静岡南
浜松城北工 29－14 静岡西
清水商 27－10 気賀
沼津東 21－20 星陵

▼3回戦
富士 14－13 静岡東
静岡農 23－20 浜松湖東
伊豆中央 27－19 浜松城北工
沼津東 28－18 清水商

▼準決勝
富士 14－13 静岡農
伊豆中央 27－19 沼津東

▼決勝
伊豆中央 17（8－2、9－10）12 富士

〈女子〉

▼1回戦
清水商 41－1 富士東
気賀 23－8 小山
藤枝西 17－7 吉原
清水西 14－10 富士見
静岡城北 21－2 二俣
清水東 24－3 吉原商
静岡農 12－10 御殿場
浜松南 10－7 富士宮東

▼2回戦
清水商 23－2 気賀
清水西 12－9 藤枝西
静岡城北 23－3 清水東
静岡農 10－5 浜松南

▼準決勝
清水商 22－3 清水西
静岡城北 26－6 静岡農

▼決勝
静岡城北 13（5－6、8－5）11 清水市商

三重県中学新人大会

（1月26日、2月2日／鈴鹿市体育館、ジャスコ富田体育館）

〈男子〉

▼1回戦
西朝明 17－16 東員第二

▼2回戦
菰野 16－14 白子
明和 26－4 東員第一
亀山 20－5 南
西笹川 27－6 西朝明

▼準決勝
西笹川 21－10 菰野
亀山 14－7 明和

▼決勝
亀山 20（10－8、10－6）14 西笹川

〈女子〉

▼1回戦
明和 15－8 白子
西笹川 39－2 大安
朝明 10－7 東員第二
名張北 14－7 羽津
菰野 17－3 拓植
亀山 13－2 南
西朝明 25－6 北勢
笹川 16－9 桔梗ヶ丘

▼2回戦
西笹川 27－5 明和
朝明 18－11 名張北
菰野 9－8 亀山
西朝明 12－7 笹川

▼準決勝
西笹川 8－6 朝明
菰野 11－5 西朝明

▼決勝
西笹川 12（6－5、6－2）7 菰野

第2回近畿小学生大会

（日程、場所不明）

▼一次リーグ

○イ組
真弓男 8－1 和歌山男
向島南小 8－5 真弓男
向島南小 11－4 和歌山男

○ロ組
貞教小 10－3 毛毬ク
貞教小 6－1 明石HC
毛毬ク 11－4 明石HC

○ハ組
根知和ク 10－1 和歌山女
根知和ク 6－3 真弓女
真弓女 5－2 和歌山女

▼二次リーグ

○1位グループ
貞教小 8－2 向島南小
貞教小 9－0 根知和ク
向島南小 8－6 根知和ク

○2位グループ
真弓男 4－4 毛毬ク
毛毬ク 7－4 真弓女
真弓男 9－4 真弓女

○3位グループ
明石HC 2－2 和歌山男
明石HC 6－3 和歌山女
和歌山女 5－3 和歌山男

第65回愛知県実業団リーグ

（1月16日～2月5日）

〈一部〉
トヨタ自動車 24－19 新日鉄名古屋
日本電装 22－19 豊田合成
豊田自動織機 23－14 新日鉄名古屋
豊田合成 27－21 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 29－20 日本電装
トヨタ車体 40－21 豊田合成
トヨタ自動車 26－18 豊田自動織機
トヨタ車体 32－21 日本電装
トヨタ車体 38－18 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 34－21 豊田合成
豊田自動織機 19－18 日本電装
トヨタ自動車 23－19 トヨタ車体
トヨタ車体 31－20 豊田自動織機
新日鉄名古屋 22－17 日本電装
豊田自動織機 25－20 豊田合成

〔順位〕①トヨタ自動車②トヨタ車体③豊田自動織機④日本電装⑤豊田合成⑥新日鉄名古屋

〈二部〉
日本碍子 21－13 東海理化
アイシン精機 35－29 パイロットインキ
豊田工機 49－20 ブラザー工業
アイシン精機 33－16 日本碍子
ブラザー工業 17－12 パイロットインキ
アイシン精機 33－17 東海理化
豊田工機 29－20 日本碍子
豊田工機 43－10 東海理化
日本碍子 28－18 ブラザー工業
東海理化 30－7 パイロットインキ
豊田工機 35－33 アイシン精機
日本碍子 22－17 パイロットインキ
アイシン精機 43－18 ブラザー工業
豊田工機 31－20 パイロットインキ
東海理化 18－9 ブラザー工業

〔順位〕①豊田工機②アイシン精機③日本碍子④東海理化⑤ブラザー工業⑥パイロットインキ

全国高校選抜近畿地区予選

（2月8、9日／生駒市総合運動公園体育館）

〈男子〉

▼1回戦
明石北（兵庫）20（9－6、11－10）16 高島（滋賀）
東宇治（京都）22（10－7、12－9）16 添上（奈良）

▼準決勝
明石北 24（13－6、11－8）14 県和歌山商（和歌山）
大阪商（大阪）27（13－4、14－4）8 東宇治

▼決勝
大阪商 19（11－7、8－6）13 明石北

▼敗者戦
添上 23（14－8、9－8）16 県和歌山商
添上 30（13－9、17－11）20 高島

〈女子〉

▼1回戦
彦根商（滋賀）21（11－3、10－5）8 短大付（奈良）
明石（兵庫）17（7－1、10－11）12 東宇治（京都）

▼準決勝
彦根商 24（11－5、13－6）11 粉河（和歌山）
四天王寺（大阪）22（12－2、10－6）8 明石

▼決勝
四天王寺 26（13－3、13－5）8 彦根商

▼敗者戦
東宇治 25（12－7、13－5）12 粉河
東宇治 18（9－1、9－3）4 短大付

全国高校選抜北信越地区予選

（2月15、16日／高岡市民体育館他）

〈男子〉

▼リーグ戦
柏崎工（新潟）21（12－6、9－10）16 上田（長野）
小松工（石川）（13－8、8－8）16 北陸（福井）
高岡向陵（富山）36（21－4、15－7）11 柏崎工

小松工 27（8-9, 19-3）12 上田
高岡向陵 29（11-8, 18-6）14 北陸
北陸 12（5-2, 7-1）3 柏崎工
高岡向陵 21（11-5, 10-6）11 上田
小松工 26（15-8, 11-1）9 柏崎工
北陸 21（10-6, 11-3）9 上田
高岡向陵 20（10-8, 10-9）17 小松工

[順位]①高岡向陵②小松工③北陸④柏崎工⑤上田

〈女子〉

▼リーグ戦

佐久（長野）17（10-5, 7-3）8 新潟江南（新潟）
小松市女（石川）29（14-2, 15-3）5 福井商（福井）
有磯（富山）（14-5, 8-4）9 新潟江南
小松市女 32（15-4, 17-4）8 佐久
有磯 18（10-3, 8-5）8 福井商
福井商 27（13-3, 14-2）5 新潟江南
佐久 15（7-8, 8-5）13 有磯
小松市女 33（16-1, 17-0）1 新潟江南
福井商 16（11-5, 5-6）11 佐久
小松市女 30（13-3, 17-2）5 有磯

[順位]①小松市女②有磯③佐久④福井商⑤新潟江南

第28回知事杯京都府選抜選手権

（2月11、16日／京都府立体育館、伏見港公園総合体育館）

〈男子〉

▼1回戦

京都教員B 27-17 高校選抜
東山クB 17-17 舞鶴高専（3PTC2）
東陵高 25-8 田辺町役場
伏見ク 21-17 東宇治高
桂高 23-18 八幡ク
京都教員A 25-14 東宇治高
舞鶴海上自衛隊 29-10 田辺ク
東山クA 19-14 北嵯峨高

▼2回戦

京都教員B 30-5 東山クB
伏見ク 21-14 東陵高
京都教員A 30-15 桂高
東山クA 21-10 舞鶴海上自衛隊

▼準決勝

京都教員B 32-7 伏見ク
東山クA 31-13 京都教員A

▼3位決定戦

京都教員A 22-15 伏見ク

▼決勝

京都教員B 28（11-9, 17-6）15 東山クA

〈女子〉

▼1回戦

古都ク 25-11 洛西高
高校選抜 15-6 東宇治高
向陽高 36-3 京都文化短大
都ク 11-7 明徳商高

▼準決勝

高校選抜 12-10 古都ク
都ク 15-14 向陽高

▼3位決定戦

古都ク 11-10 向陽高

▼決勝

高校選抜 21（9-7, 12-10）17 都ク

全国高校選抜中国地区予選

（2月15、16日／岡山県体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

江津（島根）16（11-3, 5-8）11 境（鳥取）
岩国工（山口）13（7-6, 6-6）12 修道（広島）
総社（岡山）28（14-8, 14-7）15 江津
岩国工 27（15-9, 12-7）16 総社
岩国工 16（8-6, 8-5）11 江津
総社 26（15-6, 11-4）10 修道
岩国工 23（13-10, 10-8）18 境
修道 15（4-3, 11-4）7 江津
総社 22（14-6, 8-9）15 境

[順位]①岩国工②総社③修道④江津⑤境

※岩国工、総社が全国大会へ。

〈女子〉

▼リーグ戦

山陽女（広島）25（10-1, 15-9）10 西大寺（岡山）
岩国商（山口）26（16-2, 10-2）4 米子北（鳥取）
山陽女 35（15-3, 20-4）7 江津（島根）
岩国商 28（14-4, 14-3）7 西大寺
米子北 19（9-2, 10-7）9 江津
山陽女 26（11-1, 15-2）3 米子北
岩国商 29（13-7, 16-6）13 江津
西大寺 14（8-4, 6-2）6 米子北
山陽女 22（10-4, 12-2）6 岩国商
西大寺 19（7-6, 12-10）16 江津

[順位]①山陽女②岩国商③西大寺④米子北⑤江津

※山陽女、岩国商が全国大会へ。

第25回東海室内選手権 全国高校選抜東海地区予選

（2月22、23日／露橋スポーツセンター、ブラザー体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦

本田技研鈴鹿（三重）36-6 岐阜教員（岐阜）
トヨタ自動車（愛知）31-15 清商ク（静岡）

▼決勝

本田技研鈴鹿 31（13-9, 18-3）12 トヨタ自動車

〈一般女子〉

▼1回戦

ブラザー工業（愛知）38-7 腕満会（岐阜）
ジャスコ（三重）37-14 ポストク（静岡）

▼決勝

ジャスコ 18（9-5, 9-12）17 ブラザー工業

〈高校男子〉

▼リーグ戦

四日市工（三重）24（11-12, 13-9）21 岡崎城西（愛知）
市岐阜商（岐阜）23（10-3, 13-2）5 伊豆中央（静岡）
岡崎城西 28（13-7, 15-9）16 市岐阜商
四日市工 38（19-10, 19-14）24 伊豆中央
岡崎城西 30（15-3, 15-4）7 伊豆中央
四日市工 23（15-8, 8-9）17 市岐阜商

[順位]①四日市工②岡崎城西③市岐阜商④伊豆中央

〈高校女子〉

▼リーグ戦

名短大付（愛知）19（10-8, 9-3）11 暁（三重）
本巣（岐阜）11（6-6, 5-4）10 静岡城北（静岡）
暁 18（8-2, 10-4）6 静岡城北
名短大付 27（13-3, 14-4）7 本巣
暁 21（13-3, 8-3）6 本巣
名短大付 26（16-3, 10-5）8 静岡城北

[順位]①名短大付②暁③本巣④静岡城北

第16回鳥取県室内総合選手権

（3月16、21日／境港市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦

アシックス・ク 32-9 米子東高
おニャンコ・ク 14-11 境港二中
境港三中 16-8 境ミドル
米子高専 17-6 境港一中
倉吉ク 34-14 境港工中
樫ノ葉ク 27-20 境高
鳥取大 22-15 ダンディーズ

▼2回戦

アシックス・ク 29-12 おニャンコ・ク
米子高専 30-11 境港三中
倉吉ク 21-20 樫ノ葉ク
鳥取大 30-10 米子西高

▼準決勝
アシックス・ク 50－16 米子高専
倉吉ク 27－26 鳥取大
境港一中 16－10 倉吉産高
境ク 16－5 米子南商高
境高 21－12 米子西高

▼準決勝
米子北高 11－6 境港一中
境ク 25－8 境高

▼決勝
境ク 19（8－7、11－4）11 米子北高

和歌山県室内総合選手権

（3月21、23日／打田町体育館、岩出町体育館）

〈男子〉

▼1回戦
県和歌山商高 21－20 黒潮ク
住友金属 26－22 笠田高
和歌山大A 24－15 和歌山高専
御坊商工高 24－10 市和歌山商高

▼2回戦
御坊ク 25－19 県和歌山商高
住友金属 33－17 和歌山大A
那賀高 23－14 御坊商工高
県和歌山商ク 27－20 和歌山大B

▼準決勝
御坊ク 30－16 住友金属
県和歌山商ク 25－13 那賀高

▼決勝
県和歌山商ク 22（10－7、12－9）16 御坊ク

〈女子〉

▼1回戦
御坊商工高 21－8 県和歌山商高
県和歌山商ク 20－7 那賀高
粉河高 25－14 和歌山大

▼準決勝
御坊商工高 17－7 粉河ク
粉河高 18－17 県和歌山商ク

▼決勝
御坊商工高 16（9－4、7－9）13 粉河高

第41回岡山県高校春季優勝大会

（4月12、13、19日／倉敷商高）

〈男子〉

▼1回戦
落合 28－4 井原
玉野 18－13 倉敷南
天城 17－16 朝日
児島 20－9 吉備
倉敷商 32－2 和気閑谷
芳泉 10－9 備前東
西大寺 13－8 青陵
岡山工 26－8 邑久
大安寺 12－7 関西
玉野光南 30－11 水島工
津山 20－5 一宮

▼2回戦
総社 26－6 落合
天城 16－9 玉野
倉敷商 10－9 児島
古城池 22－11 芳泉
東岡山工 19－12 西大寺
操山 19－12 岡山工
玉野光南 24－11 大安寺
倉敷工 19－15 津山

▼3回戦
総社 14－9 天城
倉敷商 12－11 古城池
東岡山工 18－15 操山
玉野光南 18－15 倉敷工

▼準決勝
総社 23－16 倉敷商
玉野光南 20－16 東岡山工

▼3位決定戦
東岡山工 17－16 倉敷商

▼決勝
総社 23（11－9、12－13）22 玉野光南

〈女子〉

▼1回戦
一宮 10－7 倉敷中央
操山 11－7 大安寺
津山商 10－9 青陵
芳泉 14－4 児島第一
玉野光南 19－3 朝日
玉野 18－8 津山

▼2回戦
児島 17－3 一宮
総社 16－11 操山
天城 17－9 倉敷商
倉敷南 19－4 津山商
備前東 7－5 真備
玉野光南 14－9 古城池
西大寺 19－8 玉野

▼3回戦
総社 11－10 児島
倉敷南 18－16 天城
落合 26－11 備前東
西大寺 12－10 玉野光南

▼準決勝
総社 13－12 倉敷南
西大寺 18－13 落合

▼3位決定戦
落合 18－16 倉敷南

▼決勝
西大寺 19（8－4、11－4）8 総社

三重県春季選手権

（4月13、20日／四日市工高、津東高）

〈一般の部〉

▼1回戦
オールド 36－10 四日市中央ク
三重教員
半田ク 20－17 鳥羽商船
鵜ノ森ク 30－10 鈴鹿高専
本田ク 38－9 尾鷲ク

▼2回戦
本田技研鈴鹿 35－10 オールド
三重教員
皇学館大 20－18 半田ク
三重教員 17－13 鵜ノ森ク
本田技研爽風会 20－19 本田ク

▼準決勝
本田技研鈴鹿 41－4 皇学館大
本田技研爽風会 30－19 三重教員

▼決勝
本田技研鈴鹿 39（18－10、21－2）12 本田技研爽風会

〈高校男子〉

▼1回戦
桑名 20－7 桑名工
四日市中央工 17－15 高田
津工 28－9 四日市四郷

▼2回戦
四日市工 47－3 四日市中央工
尾鷲 19－15 桑名北
津西 24－6 日生第一
亀山 32－3 津
四日市 18－14 桑名
津東 28－15 四日市西
海星 16－10 桑名西
四日市南 31－9 津工

▼3回戦
四日市工 36－9 尾鷲
亀山 22－5 津西
津東 21－17 四日市
四日市南 22－21 海星

▼準決勝
四日市工 32－13 亀山
津東 15－11 四日市南

▼3位決定戦
亀山 20－9 四日市南

▼決勝
四日市工 28（16－6、12－7）13 津東

〈高校女子〉

▼1回戦
津東 21－9 四日市四郷

四日市	37-6	松阪女
桑名	15-6	桑名北
上野	17-10	亀山
四日市西	19-6	尾鷲
▼2回戦		
暁	37-3	津東
四日市	20-10	桑名
四日市商	12-8	上野
四日市南	19-5	四日市西
▼準決勝		
暁	30-5	四日市
四日市南	11-9	四日市商
▼3位決定戦		
四日市商	19-11	四日市
▼決勝		
暁	22（11-6, 11-5）11	四日市南

第4回香港国際トーナメント

報告／ジュニア監督・本田洋

（3月28日～30日／ホンコン）

●参加国

中国、韓国、日本、インド、ホンコンA、B

▼予選リーグAグループ		
中国	27-10	日本
中国	37-18	ホンコンB
日本	32-12	ホンコンB
▼予選リーグBグループ		
韓国	24-16	インド
韓国	37-18	ホンコンB
インド	18-12	ホンコンB
▼5、6位決定戦		
ホンコンA	24-18	ホンコンB
▼3、4位決定戦		
日本	19-15	インド
▼決勝		
中国	26-25	韓国

【順位】①中国②韓国③日本④インド⑤ホンコンA⑥ホンコンB

今年で第4回目を迎える香港国際トーナメント大会であるが、この大会に中国ナショナル、韓国大学優勝チーム、インドナショナル、香港ナショナルA、Bが出場している。

我が日本は、18、19歳の昭和60年度高校メンバー8名と昭和59年度高校メンバー6名の新ジュニア男子候補より選抜したチーム編成で臨む。5日間の直前合宿が初顔合せであった。

今大会への初期の目的は、アジア各国の競技力を選手自身が肌で感じとり、今まで高校界で指導者より培ってきた心、技、体の能力を試すと共に自己自身の能力を発揮させ、各国チームと対抗する中で不足面を知覚し、「自らが自らを変えていく」という能力を基礎能力とし、心、技、体共に錬磨していくことを基礎技術であるというコーチング・スタッフの理念を理解させることにありました。

屋外、コンクリートコート、雨天決行という外的環境と、初めて体験する海外での他国の代表チームとの対戦は、選手にとって異常な驚きの瞬時の連続であった。

日本国内、しかも高校界での勝つがための狭量な技術本位にとらわれやすい最近の選手の思考を一掃するにふさわしい大会なのであります。また、常に日本の代表として活躍してゆく上に必要なリーダーシップをも身につける必要があり（現メンバーは大学の1、2年という下級生にあたる）、自覚させることへの指導が最も大切なものでもあります。

以上のようなことをよく体験し、自覚し、プレーヤーとしてよく燃えて大会の成果をあげてくれました。

宮城県春季選手権

（4月18日～20日／仙台市体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦		
学院大	35-19	宮城教大
ピーターパン	36-20	仙台電波高専
学院大OB	23-17	有英OB会
学院大	38-10	学院大工学
仙台大	23-17	東北大
▼準決勝		
学院大	47-18	ピーターパン
仙台大	29-25	学院大OB
▼決勝		
仙台大	28（17-13, 11-14）27	学院大

〈女子〉

▼1回戦		
聖和ク	14-11	宮二女高
宮三女高	13-12	福祉大
古川女高	15-6	仙台女商高
涌谷高	13-9	朴沢高
飯野川高	23-5	宮教大
聖和高	7-6	宮一女高
塩釜女高	25-5	築館女高
古川商高	21-8	仙台西高
▼2回戦		
聖和ク	16-8	宮三女高
涌谷高	19-10	古川女高
聖和高	12-8	飯野川高
古川商高	11-9	塩釜女高
▼準決勝		
聖和ク	22-11	涌谷
聖和高	22-8	古川商
▼決勝		
聖和高	16（8-3, 8-6）9	聖和ク

〈高校男子〉

▼1回戦		
古川工	31-20	古川商
塩釜	18-13	泉松陵
仙台一	26-11	東北
仙台西	20-13	宮城工
電子工	28-17	宮城水産
仙台向山	32-14	仙台商
仙台	23-9	仙台三
▼2回戦		
古川工	28-18	泉館山
塩釜	28-4	学院榴岡
仙台一	26-9	名取北
仙台二	21-20	仙台西
仙台南	40-15	電子工
仙台向山	28-13	佐沼
古川	45-8	築館
育英	24-17	仙台
▼3回戦		
古川工	28-15	塩釜
仙台一	22-13	仙台二
仙台向山	26-13	仙台南
古川	26-11	育英
▼準決勝		
古川工	22-17	仙台一
古川	21-10	仙台向山
▼決勝		
古川工	27（15-9, 12-7）16	古川

試合結果ご送付のお願い

いよいよ61年度のシーズンも開幕、全国各地で熱戦の火ブタが切って落とされたことでしょう。

機関誌では、今シーズンも各地の熱戦の結果を出来るだけ詳しく、出来るだけ早くみなさんにお伝えしたいと願っております。各地の担当者の方々は、ご面倒だとは思いますが、大会が終了次第、日本協会機関誌編集委員会宛結果の送付をしていただくようお願い申し上げます。

（機関誌編集委員会）

第11回　日本ハンドボールリーグ日程表

前期　（一部男子）　　前期　（一部女子）

開催日	開催地	開始時間	（男子）組合せ	開始時間	（女子）組合せ
5/31(土)	岩井	14:30～	大崎電気 × 三景	15:55～	日立栃木 × 日本ビクター
6/1(日)	沖縄	16:00～	湧永製薬 × 三陽商会	14:30～	立石電機 × 大和銀行
	東根	15:10～	日新製鋼 × 本田鈴鹿	13:30～	大崎電気 × ジャスコ
6/7(土)	東京	17:50～	湧永製薬 × 三景	16:30～	日本ビクター × 大和銀行
		19:20～	大崎電気 × 三陽商会		
6/8(日)	栃木	13:50～	大崎電気 × 本田鈴鹿	12:30～	立石電機 × ジャスコ
				15:20～	日立栃木 × 大和銀行
	甲府	14:30～	日新製鋼 × 三陽商会	13:00～	大崎電気 × 日本ビクター
6/14(土)	鈴鹿	15:50～	本田鈴鹿 × 三陽商会	14:30～	日立栃木 × ジャスコ
6/15(日)	西ノ宮	15:30～	湧永製薬 × 日新製鋼	12:30～	ジャスコ × 大和銀行
				14:00～	大崎電気 × 日立栃木
	岡崎	15:10～	本田鈴鹿 × 三景	12:20～	立石電機 × 日本ビクター
6/20(金)	呉	18:00～	日新製鋼 × 三景		
6/21(土)	岐阜	16:00～	湧永製薬 × 本田鈴鹿	14:30～	立石電機 × 日立栃木
	徳山	18:40～	大崎電気 × 日新製鋼	17:10～	ジャスコ × 日本ビクター
	大阪	15:50～	三陽商会 × 三景	17:10～	大崎電気 × 大和銀行
6/22(日)	京都	16:30～	湧永製薬 × 大崎電気	15:00～	大崎電気 × 立石電機

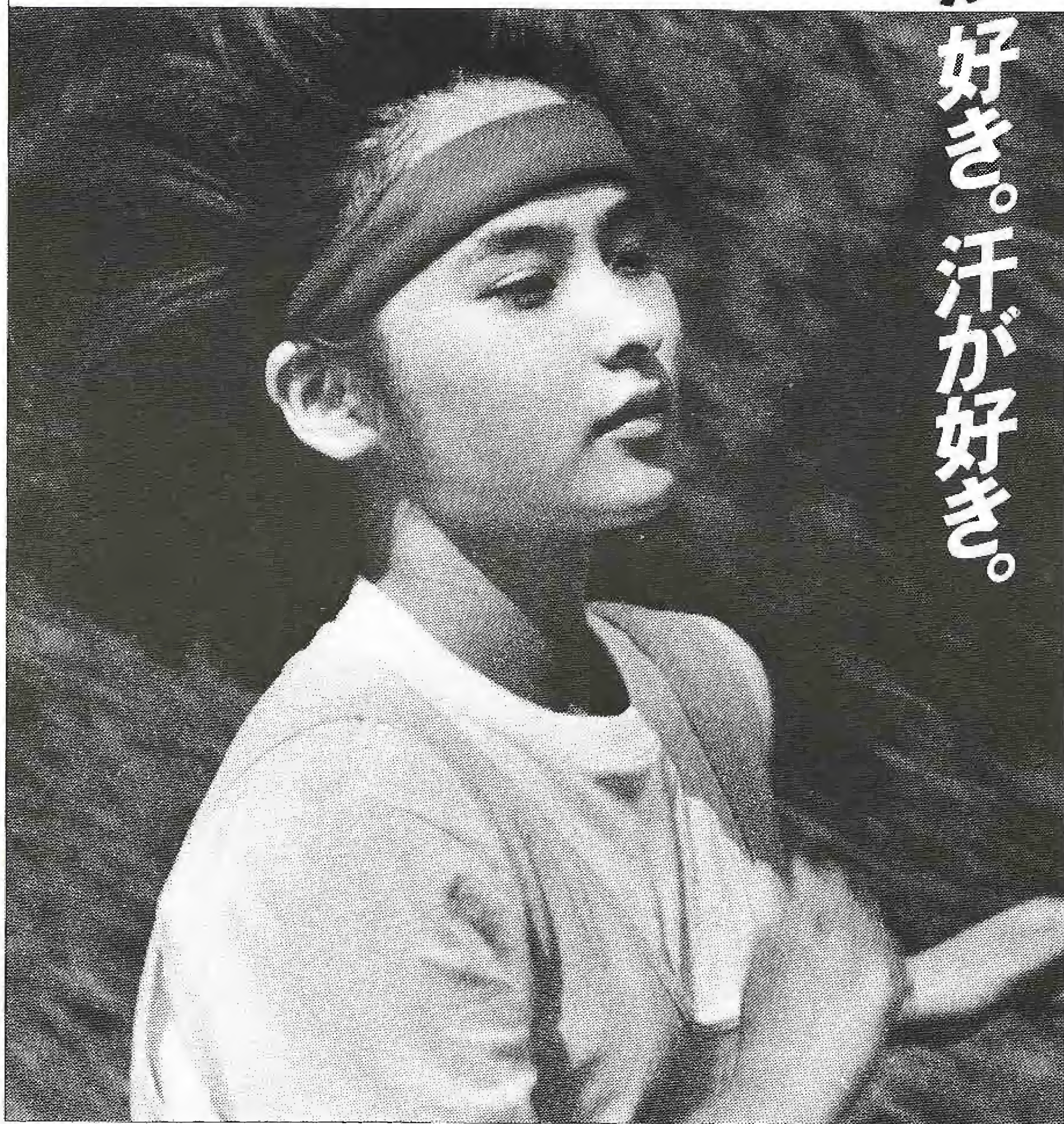
前期　（二部男子）　　前期　（二部女子）

6/1(日)	東根	12:00～	トヨタ自動車 × 中村荷役		
	沖縄			13:00～	東京重機 × ソニー国分
6/7(土)	塩山			14:00～	ブラザー工業 × シャトレーゼ
				15:30～	北国銀行 × ムネカタ
6/8(日)	甲府			10:00～	ブラザー工業 × ムネカタ
				11:30～	北国銀行 × シャトレーゼ
6/14(土)	大阪	10:00～	トヨタ自動車 × 日鉄建材		
		11:15～	本田熊本 × 中村荷役	12:30～	東京重機 × ムネカタ
		15:00～	大阪イーグル × 大同特殊鋼	13:45～	シャトレーゼ × ソニー国分
		16:15～	トヨタ車体 × 大阪ガス		
6/15(日)	岡崎	13:50～	トヨタ車体 × 大同特殊鋼	11:00～	ブラザー工業 × 北国銀行
	大阪	10:00～	日鉄建材 × 大阪ガス		
		12:30～	トヨタ自動車 × 本田熊本	11:15～	ムネカタ × ソニー国分
		15:00～	大阪イーグル × 中村荷役	13:45～	東京重機 × シャトレーゼ
6/21(土)	大阪	14:30～	大阪イーグル × 大阪ガス		
	名古屋	14:50～	本田熊本 × 大同特殊鋼	13:30～	ブラザー工業 × ソニー国分
		17:30～	トヨタ車体 × 中村荷役	16:10～	東京重機 × 北国銀行
				18:50～	シャトレーゼ × ムネカタ
6/22(日)	名古屋	11:20～	中村荷役 × 大同特殊鋼	10:00～	北国銀行 × ソニー国分
		12:40～	トヨタ自動車 × 大阪ガス	15:20～	ブラザー工業 × 東京重機
		14:00～	大阪イーグル × 本田熊本		
		16:40～	トヨタ車体 × 日鉄建材		

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵



（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二五一号
昭和四十年六月十
第三種郵便物認可
昭和六十一年四月二十五日 印刷
昭和六十一年五月 一 日 発行
東京都渋谷 一一一一一
電話 代表 二三六一
振替 東京 六一五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円
（年間購読料 三千三百円）

ライバルは「世界」。

トップ選手用〈スカイハンド®スペシャル〉

〈スカイハンド®スペシャル〉は、多くのトップ選手に履かれています。軽くてショック吸収性が高いE・V・A素材内蔵のカップソール、力を加えると変形してフロアをとらえる底デザインなど、優れた機能がトップ選手のフットワークに100%こたえています。
まさに世界と闘うための一足です。

スカイハンド®スペシャル（THH705）
- 甲被はステア表革（ホワイト）、牛革ベロア（レッド、ロイヤルブルー）
- ホワイト×レッド、レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ 22.5〜28.0cm　標準小売価格 ¥12,800

asics TIGER
Handball Shoes
スカイハンド スペシャル

株式会社アシックス